

令 和 4 年 9 月 2 日
文教・福祉常任委員会資料
福 祉 こ ど も 部
教 育 部

宇治市の乳幼児期の教育・保育の今後のあり方に関する
意見書（案）に対する意見募集結果及び意見書について

令和4年8月18日に第5回宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会を開催し、「宇治市の乳幼児期の教育・保育の今後のあり方に関する意見書（案）」に対する意見募集結果及び意見書について取りまとめられ、令和4年8月22日に意見書を提出されましたので、下記のとおりご報告いたします。

記

1 意見募集結果について

「宇治市の乳幼児期の教育・保育の今後のあり方に関する意見書（案）」に対する市民の皆様からの意見募集結果 [資料1](#)

2 意見書について

意見募集結果を踏まえた宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会での意見書（案）修正箇所 [資料2](#)

宇治市の乳幼児期の教育・保育の今後のあり方に関する意見書 [資料3](#)

令和 4 年 8 月

「宇治市の乳幼児期の教育・保育の今後のあり方に関する意見書（案）」に対する市民の皆様からの意見募集結果

「宇治市乳幼児期の教育・保育の今後のあり方に関する意見書（案）」について、市民の皆様からご意見を募集しましたところ、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

お寄せいただいたご意見及びご意見に対する考え方を、第 5 回宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会での検討を踏まえ、下記のとおり公表いたします。

1 意見募集期間

令和 4 年 7 月 1 5 日から令和 4 年 8 月 1 3 日まで

2 意見提出者数

提出方法	人数
直接	5 人
市民の声投書箱	2 人
郵便	1 人
ファクシミリ	1 人
電子メール	3 人
インターネット回答	3 5 人
計	4 7 人

3 意見数

意見区分	件数
就学前施設のあり方	1 0 件
公立就学前施設のあり方	3 件
公立就学前施設（保育所）のあり方	1 件
公立就学前施設（幼稚園）のあり方	2 4 件
その他要望等	3 5 件
計	7 3 件

4 意見等の概要及び意見等に対する考え方

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
1	就学前施設のあり方	保育園のことについてはよくわかりませんが、幼稚園は、各園それぞれ特色が豊かで、教育方針に合う園を選ぶことができたのでよかったと思います。様々な選択肢があるのはありがたいので、園児が減っても廃園せず存続していただきたいです。	現在、宇治市では私立幼稚園は9園、公立幼稚園は3園あり、各園に特色があることで、就園にあたっての選択肢は広がると考えております。一方、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することなどが求められており、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし
2	就学前施設のあり方	4歳2歳0歳の子育て中の母親です。3人目を出産後、退職し求職活動中です。上の子2人は民間認定こども園に通園中です。先日、意見書を拝見させて頂きました。母親として、助産師として思うことを個人的な意見ではありますが投稿させて頂きます。現在、上の子どもたちは1号認定で保育園に通園しています。短時間保育のため、8時30分から16時30分の短時間保育です。生後2ヶ月の子どもを抱え、上の子たちの登園を行っています。8時頃に登園可能なら、夫の通勤のついでに送ってもらうことができるのですが、朝の延長保育も基本は行っていないとのことで、夜間授乳に追われている身ではありますが登園を担当しています。園の先生達によれば、生後1週間の子どもを連れて登園している方もいるとのことで、産後の母親に手厳しいなと思っています。地域で子育てをとる社会情勢の中、結局、ワンオペにならざるを得ないような制度や規定が多々あり、助産師として、どうぞ地域を頼ってくださいとママ達に申し上げてきたこととかけ離れており、とても心苦しく思っています。また、コロナ禍で、園と保護者の意見交換は皆無であり、園からの一方的な通達により家庭保育を勧めてきており、園に対する信頼が薄くなってきています。宇治市の保育の入所のしおりに、家庭保育が推し進められており、もちろん、子どもにとって、家庭は心の安全地帯であるべきですが、決して家庭で母親が保育をするべきだということではないはずです。未就学児の母親の孤立がクローズアップされていますし、就労していなくても、就労している母親と同等に保育園に預けられるような仕組みも必要なのではないかと思っています。医療的ケア児の通園など、課題は多々あります。保育園も努力されていると思いますが、母親を含めた家族の心の健康は、何よりも子どもたちの健やかな育ちにつながります。少子化、働き方の多様化もしかり、父親が子育てに参加しやすい地域、母親を孤立させない地域のあり方について、教育・保育の観点と合わせて、今一度具体的な意見を幅広く吸い上げ、検討実施して頂きたいです。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、保護者の多様な就労形態により、施設類型を問わず、施設で過ごす時間の多様化に加え、求められる乳幼児期の教育・保育も多様化していること、幼稚園、保育所、認定こども園が地域に根差した施設として、子ども・保護者・地域が活動や交流を行っていくための拠点施設としての役割が求められていることが挙げられます。そのため、公立の就学前施設において基本となる教育・保育を実践することにより、市域全体の乳幼児期の教育・保育の質を確保・向上させる取組を推進していくことや、地域や家庭と連携し、子育て相談や地域行事への参加など、地域に根差した取組を進める必要があります。こうした状況を踏まえながら、教育・保育の観点からの地域のあり方など、いただいたご意見も参考にして、宇治市の今後の就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
3	就学前施設のあり方	乳幼児の健康サポート・対策の検証についても触れていただきたいと思います。 ”健やかに育つため”や”～特別な配慮や支援が必要な子ども””保育の質”といった記述はありましたし、実際の保育現場において、子どもの怪我や病気を防ぐためにかなり努力されているとは思いますが、 しかし、特に公立保育所と民間保育所のコロナウイルス対策内容、そのスピードの違いを感じます。また、裸足保育を推奨しているからといって、室内だけでなく、外で靴を履いての活動も全て裸足のため、汗による衛生面や足の爪への影響が心配されます。 上記は一例ですが、そういった健康衛生面での意見を現場で受けられた時に、担当者が対策や検証を迅速に行い、権限者までその過程と結果を届ける根拠のためにも、本意見書に”全ての子どもの健康”にもスポットを当てた一文が入ってほしいです。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、教育・保育の取組を公立、私立、民間、施設類型を問わず全市的に連携・協働して行うとともに、教育・保育の質の向上に向けた人材育成が求められています。 そのため、合同での各種研究、研修の実施を通じ、施設類型に関係なく教育・保育の基本理念を共有し、職員同士の連携の強化を図るとともに、人材育成に努める必要があります。 挙げていただいた子どもの健康については、今後、公立・私立・民間による合同の研修の実施などを通じて、検証を行うことが適切であると考えます。	修正なし
4	就学前施設のあり方	保育の質を向上させ、連携を強化するためにも、まずは保育者の賃金を含めた雇用条件の改善が必要だと考えます(特に民間施設)。優秀な人材を確保し、一人一人がその日の保育で手いっぱいになるのではなく、人数を増やし、保育全体のことまで考えられる余力を残すことが本当の意味で保育の質の向上を図れると思います。その為にも全体的な労働環境の底上げを、この意見書で示していただきたいと思います。	宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会は、宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く様々な課題について、主に公立及び私立、民間の就学前施設それぞれが果たすべき役割や、これらの就学前施設における具体的な取組の方向性について検討するために設置しました。 挙げていただいた雇用条件の改善、労働環境の底上げにつきましては、宇治市に限らず、全国的な課題であると認識しておりますので、ご理解をお願いします。	修正なし
5	就学前施設のあり方	基本理念がもう少し具体的な言葉でないとうわかりにくい。 特に『地域や家庭・施設の連携の観点』点と点から線や面、網目きめ細やかに連携など。	意見書3ページ『地域や家庭・施設の連携の観点』につきましては、ご指摘のとおり「点と点から線や面」などの抽象的な表現とせず、具体的な表現とするよう修正いたします。	<u>修正あり</u>
6	就学前施設のあり方	実際に宇治の私立幼稚園で働いています。 意見書の内容はよく理解でき、実際に叶えば、子ども達や保護者にとっても望ましい未来になると思います。 ですが、働いている立場としては難しい点があると思いました。 長年、今の園で働いていますが、私立幼稚園との繋がりはあるものの、公立幼稚園や保育園との繋がりはなく、各園の保育内容等も知らないのが現状です。そして、ずっと課題であった小学校との連携もまだまだ関係性が希薄であると思われます。 そして、療育の繋がりが希薄であり、幼稚園として連携したくても拒む施設があるのが現状です。 この意見書を提出することで変わっていくのであればいいのですが、現実的に変化が感じられるのは何年か経ってからなのかもしれませんね。 子ども達の未来が輝かしいものになることを願っています。	意見書(案)第2章・第3章にありますように、公立、私立、民間、施設類型を問わず全市的に連携・協働して、保幼小や療育など福祉と連携した取組や人材育成に向けた研究・研修の推進を図ります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
7	就学前施設のあり方	公立間の連携のしやすさを生かすことで、宇治市内における就学前施設と小学校等(就学先)が連携を取り合い土台になっていくという考えは、とても理想的であると思う。しかし、取り組み方の前に、なぜ深まっていけないのか。公立だけに偏らず民間の施設に通う子ども達にも同等の交流が持てるよう、色々な問題点に目を向けてもらいたいと願っている。 実際のところ、乳幼児期の教育や保育を保護者が考えたときに、あまり私立・公立という枠組みを意識することは少ないとも感じるので、それぞれの役割を考えながら、必要な教育や支援が受けられるようになってほしい。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、宇治市全域の保幼小連携などの取組を公立、私立、民間、施設類型を問わず全市的に連携・協働して行うことが求められています。 そのため、公立施設が公立間の連携のしやすさを活かし、保幼小連携に向けた架け橋プログラムなど、教育・保育の質の向上に向けた研究、研修を、施設類型を問わず私立幼稚園や民間保育所・認定こども園と連携・協働して実施するとともに、これらの研究、研修機能の強化を図っていくことが必要です。 保幼小連携は、公立だけに偏らず民間の施設に通う子どもたちにも同等の交流が持てるよう、いただいたご意見を参考に、取り組んでまいります。	修正なし
8	就学前施設のあり方	障がい児や医療的ケア児が、その他の子どもたちと同じコミュニティの中で生活出来るようなシステム(設備や人員において)の構築を願います。子どもたちだけでなく、保護者同士も我が子の状況関係なく同じコミュニティで子育てをする仲間としての関係性を作れることが大事だと考えるためです。	宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会においては、障害のある子どもや医療的ケアの必要な子ども、就学前に集団の中で過ごすことの必要性について議論を行ってきました。 いただいたご意見を参考に、取り組んでまいります。	修正なし
9	就学前施設のあり方	市内のこども園に子どもをあずけており、先生方に基本的にはお忙しいなかとてもよくみてもらっていて、保育に関して教えてもらってきた部分も多いと思っています。 意見書を読みまして、先生方がかなり忙しくされていると感じるので、さらに余裕をもった人員の配置などはできないかと思いました。日頃の保育の質の向上や先生方の負担軽減のみならず、もう少し余裕があると、園で担任その他の先生と交流する機会も増え、自身の子どものみならず園や保育への理解・連携につながるのではないかと思います。 また、ここ数年は新型コロナウイルスへの対応で消毒・その他業務が増えていると思いますが、コロナに限らず緊急の事態や新しい環境へのスムーズな対応も可能になるのではないかと思います。 職員の方への研修や研究、人材育成は是非取り組んでもらいたいと思います。 上記の意見にもかかわるところですがすごく忙しくされているように感じるので研修等にも参加したいと思えるような就業のあり方、賃金水準なども検討しつつ、よりよい保育の場になっていけばと感じます。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、宇治市全域の保幼小連携などの取組を公立、私立、民間、施設類型を問わず全市的に連携・協働して行うとともに、教育・保育の質の向上に向けた人材育成が求められています。 そのため、市域全体での職員同士の連携の強化及び教育・保育の質の向上を図るため、人材育成の推進や施設類型の垣根を超えた各種研究、研修の実施の場を設けることが必要です。 人員の配置など、いただいたご意見も参考にして、施設類型に関係なく研修に参加しやすい環境づくりや職員同士の連携の強化を図ってまいります。	修正なし
10	就学前施設のあり方	宇治市全体の乳幼児教育・保育の質が向上することはとても賛成です。公立・私立共に保育の質の統一性をはかることで利用者の安心につながる。	いただいたご意見をもとに、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし

No	意見 区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の 有無
11	公立就学前 施設のあり方	働かなければならない、お母さん方の生活スタイルが、今は幼稚園より、保育所に向かっているのではないのでしょうか。数少ない公立の保育所より、高くても私立を選ばざるをえない、今日この頃です。親としては、大切な乳幼児期、子どもとたくさん長い時間一緒にいたいし、子どもにとっても大切なことです。でも、仕方無い。働かなければ生活できない、そんな世の中が、全て悪循環となっているのではないのでしょうか。 公立の保育所も、以前に減らされたツケが、まわってきましたよね。みんな、公立にいれたくてもいれられない、そんな状況になっているのではないのでしょうか。 幼稚園、保育園だけのことでなく、宇治市としての、生活のあり方が、いま問われているのではないかと思います。	保護者の多様な就労形態等により、求められる乳幼児期の教育・保育が多様化している現状であると認識しています。 こうした状況を踏まえながら、いただいたご意見も参考にして、今後の公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
12	公立就学前施設のあり方	それぞれに課題はあるにしても、私立幼稚園、民間保育所、認定こども園、公立保育所は保護者ニーズに応えられているのではないのでしょうか。著しく園児数が少ない公立幼稚園は、市内に3か所しかなく民間幼稚園のように送迎や保育メニューもなくニーズに対応出来ていないのは誰もが知るところ。 民間幼稚園では受け入れ困難な発達支援児の入園が公立幼稚園に増えるのも仕方ない。発達支援児はなかなか受け入れ要件が整いにくく、幼稚園の入園先がなく、保護者が、働く必要もない(働けない)のに、公立保育所入所のため、就労先を探すようなこともみられる。できることなら、発達支援児が保護者の就労関係なく、集団保育や療育が受けられるような就学前の支援学校のような専門性の高い施設にすることはできないのだろうか。(ツイッターでも発達支援児の保護者が切望して湧き上がっている。) 統合保育と兼ね合いを持ちながら、市の施設として、療育の保証ができると、こども、保護者、保育者、誰にとってもWinWinだと思う。要保護児童に対するケアもできたら、なお良い。 もちろんコストがかかるであろうから、様々な見直しも必要。公立保育所では、定数枠外の乳児の受け入れも何十年経とうとも条件整備もできていないのだから見直してみてもどうか。 全国どこの自治体でも徴収している延長保育料も宇治市では徴収していない。徴収すべき。 適正な定数の見直しも当然のことかと思う。 コロナ禍の中、ずっと密で過ごす状況は世界的にみても保育、教育環境のレベルは低い。 配置基準を見直してみることも必然かと思う。 現状、公立では正職、嘱託、臨職の体制であるが、慢性的に人手不足。人材育成をする余裕は一切ない 嘱託、臨職ともに、経験加算や職歴の加算があると、潜在保育士も掘り起こせるのではないだろうか。 公立幼稚園の発達支援児加配は嘱託、公立保育所の発達支援加配は臨職。幼稚園と保育所では、おなじ処遇であるべきではないのでしょうか。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、特別な配慮や支援が必要な子ども一人ひとりに寄り添ったきめ細やかで継続的な教育・保育を行うことが求められます。 こうした状況を踏まえながら、特別な配慮や支援が必要な子どもが保護者の就労状況に関係なく、集団保育や療育が受けられるような仕組みなど、いただいたご意見も参考にして、研究してまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
13	公立就学前施設のあり方	とくに公立園の園児が減少しているところがあるが、公立園はバス送迎・給食がなかったり、行事が少ない、保護者の負担が大きいなど原因はたくさんあるのかなと思う。でも、その反面、手厚くみてもらえたり、少人数でゆったりと過ごさせたいと思っている保護者もいると思うので、「就学前の乳幼児期に適正な規模での集団生活が必要であること」自体、課題であるともいえないのではないかと考える。 公立と私立園の連携に向けた「かけ橋プログラム」が今後、実施されていけば、保育士同士の意見交換など他園のことを知るきっかけにもなり、自分の保育を見つめ直す機会も増え、保育の質の向上につながっていくのではないかと考える。 保護者として預けている保育園の先生方には共に子育てをしてもらっているといっても過言ではない程、感謝をしている。 それでもニュースではずさんな保育環境・虐待のような関わりで命を落とす子もおり、保育の質だけでなく、子どもの命を守る環境、関わり、優れた人間性の中で、責任をもって子どもと過ごしてほしいし、自分も保育士としてそうでありたいと強く思います。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、少子化が進行し、乳幼児数が減少する中、特に公立幼稚園の園児数は著しく減少し、子ども同士の触れ合う機会が減少するなど集団教育上の課題が生じています。 子ども同士の触れ合う機会の減少により、人間関係や遊びの広がりといった面で、共感したり思いを伝えあったりするような子ども同士が交流する経験が乏しくなることや集団の規模が大きくなる小学校への円滑な接続が懸念されます。 そのため、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することが求められておりますが、一方で公立の就学前施設において基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要があると考えております。 また、保幼小連携に向けたかけ橋プログラムなど、教育・保育の質の向上に向けた研究、研修を、施設類型を問わず私立幼稚園や民間保育所・認定こども園と連携・協働して実施するとともに、これらの研究、研修機能の強化を図ってまいります。	修正なし
14	公立就学前施設(保育所)のあり方	公立保育園の保育時間の延長も希望したいです。今のままの時間帯であると、通勤時間が長いこともあって、時短勤務でないと働き続けられません。保育時間の1時間の延長がないと正社員で働き続けることを望めません。時短勤務が認められている子どもの年齢を超える年が近づき、どうしようかと今も悩んでいます。	保護者の多様な就労形態等により、求められる乳幼児期の教育・保育が多様化している現状であると認識しています。 こうした状況を踏まえながら、公立保育所の開所時間など、いただいたご意見も参考にして、今後の公立保育所を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし
15	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	私の息子は公立幼稚園の卒園児です。 毎日のお弁当や雨の中での送迎などが大変でした。 給食や送迎バスなどがあれば公立幼稚園に通わせようと思ってくれる親御さんも多いのではと思いました。又、長期休みも預かってもらえたりできる制度があればと思います。	保護者の多様な就労形態等により、求められる乳幼児期の教育・保育が多様化している現状であると認識しています。 こうした状況を踏まえながら、預かり保育などの、いただいたご意見も参考にして、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし
16	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	娘2人を23年前に市立幼稚園に預けていました。幸せな日々でした。子どもたちも、自由にのびのび、先生方も元気はつらつ、そんな日々でした。自由に遊びを選べる環境が用意され、子どもたちも、遊びを創造してゆける、そんな毎日でした。3年保育にいられたかったのですが、公立のそんなのびやかさにひかれ、一年待ち、抽選までして、入れた幼稚園生活でした。 子どもたちは、やはり3年保育は必要だと思います。3年保育が全園でなされていないから、あきらめて、私立にいられてしまう、お母さん方は多いと思います。早く、友達関係も作りたいのではないのでしょうか？ずっと前から3年保育はいわれてきたのに、できなかった、市のやり方がダメだったのではないのでしょうか。	公立幼稚園では、令和元年度から東宇治幼稚園で3年保育の試行実施を行っているところです。その実施状況等を十分に精査したうえで、公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方を検討する中で、公立幼稚園の3年保育について検討してまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
17	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	3人の子供の母です。3人とも公立幼稚園に通わせていました。何故公立園を選んだか、は大きな決定打はありませんでしたが、歩いて行ける近さ、近所のお友達も入園する、マンモス園ではない、ということでしょうか。幸い専業主婦でもあったので、子育てにしっかり時間も取れました。 私立園の良さもあります。園バスがあること、設備の充実、制服が可愛い、イベントが豊富、延長保育がある、など… 人それぞれの考え方はありますが、一緒に手を繋いで子供と登園するのは何気なことではありませんが、今となっては何にも変えられない最高の時間でもありました。規模が小さいのはその分保育者も目が行き届くし、横のつながりだけでなく、縦のつながりもしっかりできていたし、保護者同士も密な関係が取れました。小さい園庭で数少ない遊具では、子供たちが順番を守り、年下やお友達に譲り、自然と秩序を身につけていきました。公立なので、保育時間も短く、全てお弁当、という制限を良しとしない保護者もありますが、逆にたった2年の幼稚園生活、しっかりと我が子と関わり、保育時間外はお友達と約束してあそぶ時間もしっかりあるし、習い事に時間を作ることもできる。メリットと捉えることが多かったです。 昨今、ワーキングママも増えてきました。その中で公立園を選んでもらえるには、時代の流れを受け入れて、少しなら働けるお母さんも安心して行かせられるような体制を考えるのは必須になってきていますね。 希望者の保育時間延長、3年保育など。 やれないことはないのでは？公立幼稚園ならではの人の距離の近さや、手作り感満載の温かい雰囲気には是非触れてほしいと心から思います。決して私立園が悪いというわけではありません。私は公立園しか知らないし、公立園がこれ以上衰退してほしくないと強く願う一市民です。 そうして、のびのびと手厚いはじめての保育を受けた我が子も社会人、大学生、高校生になり、それぞれ立派に頑張っていますが、時々幼稚園時代を懐かしんでおります。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、少子化が進行し、乳幼児数が減少する中、特に公立幼稚園の園児数は著しく減少し、子ども同士の触れ合う機会が減少するなど集団教育上の課題が生じています。 また、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することなどが求められており、一方では、公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要がありますので、公立幼稚園のメリットや3年保育の内容などのいただいたご意見を参考に、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし
18	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	幼稚園については、やはり現在の世の中的に男女関係なく仕事する世の中にするのであれば、家庭によっては19時くらいまで預かってもらえれば良いのに。と感じます。	現在、預かり保育については公立幼稚園全園で午後5時まで試行実施を行っています。いただいたご意見も参考に、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について、預かり保育の内容について検討してまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
19	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	娘2人が20年ほど前に公立幼稚園でお世話になりました。今、在園生が減少して、廃園等を検討されている事をとても残念に思います。 公立幼稚園のいいところは、先生方がベテランが多く、実際、娘たちもとても大らかに見守っていただきました。 送迎バスがなく、自分で送り迎えしないといけないのは、たしかに大変ですが、園に毎日行くことで、子供の様子もよく見れますし、親や先生との関係も作りやすいです。特にここできた親同士の関係は、卒園後もずっと続き、学校や家庭の悩みをなんでも話せる友人ができました。 廃園や統合、認定保育園化を検討する前に、まだたくさんできることがあると思います。 在園生が少ないから予算がつかないのではなく、逆に予算をつけて、施設をきれいにして、子育て支援拠点にしたり、育児サークルなどと交流すれば、親子で幼稚園にくる機会が増えて、雰囲気も見れて、ここに入りたいと思う方も増えるのではないのでしょうか。 公立小学校との交流があってもいいかもしれません。 何より、ずっと長く現場におられて、たくさんの子供さんを送り出されてきた先生方の経験値は私立にはない宝物だと思います。 どうかまた前のように、賑やかな公立幼稚園が戻ってきますように、市のお力添えをお願いしたいと思います。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、少子化が進行し、乳幼児数が減少する中、特に公立幼稚園の園児数は著しく減少し、子ども同士の触れ合う機会が減少するなど集団教育上の課題が生じています。 また、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することなどが求められており、一方では、公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践や小学校との連携は引き続き継続していく必要がありますので、教員経験値などのいただいたご意見を参考に、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし
20	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	4人の子供がいて全員が公立幼稚園でお世話になっており、現在第4子が通園中です。 第1子(現在中1)が通園している時から、園児減少は言われていて3年保育の要望はかなり出ていた様に思います。そして、幼児教育無償化により、金銭面で公立を選ぶということもかなり少なくなりました。公立幼稚園の良いところがあるのは通園させていたので良くわかっていますが、やはり今のニーズには合っていないのだと思います。 3年保育にして、預かり保育を充実させても、ここまで園児が減少してしまっていると、果たして増えるのかという疑問もあります。 公立幼稚園に思い入れのある母親としては、このままの形で存続！と思う反面、いち宇治市民としては、税金の無駄使いの赤字事業では？と思う気持ちもあり複雑です。 とにかく、現在の何も決まっていない状態が1番不安な状態なので、早く何かが決まれば安心につながり、園児が増える事に繋がると思います。 このまま存続なのか、3年保育になるのか、統廃合するのか、こども園になるのか、子供達にも、子育てする親にも、先生方にも、1番良い方法がとれることを切に願っています。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、少子化が進行し、乳幼児数が減少していること、保護者の多様な就労形態等により、求められる教育・保育も多様化していることが挙げられます。 また、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することが求められており、一方で公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要があると考えています。 こうした状況を踏まえながら、いただいたご意見も参考に、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討し、できる限り速やかに市の考えをお示しするようにします。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
21	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	公立幼稚園からこども園に移行するという案は以前から聞いているが、実際にそうなった事例を聞かないため、実際どういった保育になるのか、どういうメリットがあるのか不明瞭だと思う。 それなら、ずっと保護者間での意見で叫ばれている「年少からの入園」「長期休暇時の預かり保育」を実行した方が、よっぽど市民の意見を取り入れた実例として望ましいと思う。 公立幼稚園に通わせている、通わせていた保護者の意見を聞かずして、この取り組みは語れないと思う。安易に廃園は許し難い	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、少子化が進行し、乳幼児数が減少していること、保護者の多様な就労形態等により、求められる教育・保育も多様化していることが挙げられます。 こうした状況を踏まえながら、預かり保育などのいただいたご意見も参考にして、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし
22	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	公立幼稚園を卒園しました。 障害児まではいかないですが、発達の遅い子どもだったのでなるべく手元において入園までの間あちこちの理学療法に通っていました。 公立幼稚園の伸び伸びと自由に生活する環境がとても合い、出来ない事はありましたが楽しく園生活を送れました。 私立の英才教育のようなことは普通にこなせる子どもには有り難い経験なのかも知れませんが、ついて行けないと感じる子どもは幼い頃から心に傷を負いかねないので公立のような幼稚園はありがたいと感じます。	宇治市の乳幼児期の教育・保育の今後のあり方に関する意見書(案)の第3章にて、公立幼稚園機能の維持が求められておりますので、公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要があると考えています。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
23	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	公立幼稚園を必要としているこども、保護者の思いについて、大変貴重な検討委員会であったとおもいます。 また、これからの宇治市の子育て行政にとっても沢山の良いヒントが出されていたと思います。 現在の公立幼稚園の園児数などをみると3年保育を実施した東宇治幼稚園には公立幼稚園に対する多くのニーズを見ることができると思います。29年に行われた検討委員会の提言から一定の成果はあったと感じています。しかし、その後その成果を他の園に反映することなく今回の検討委員会が行われたことは本当に残念に思います。 保護者のニーズは毎年様々になって生活様式も変化していますが、幼児期の教育のあり方は年々子どもたちの寄り添ったものになってきています。ただ、それを実感できる場が少ないことが問題だと感じています。公立幼稚園の意義とありましたが、こどもを中心にした質の高い教育活動、配慮や支援を要するこどもに対しては特別支援教育コーディネーターを中心に個別的教育支援計画や指導計画を作成し、小学校にあがる前には移行支援シートを作成し切れ目のないサポートが行われています。また、特別支援に対する研修も小学校の先生たちにおこなわれ、すべての子どもたちがそれぞれにあった支援を受け適正な教育が受けられるよう支援していただいています。検討委員会の中の意見にもありましたが、公立幼稚園が宇治市の教育委員会とつながり、様々な利点があることをいかせる施設になるべきだと思います。 29年の検討委員会でも意見を出させていただきましたが、公立幼稚園の施設使用の場をもっと広げるべきだと思います。 ・地域の子育て拠点として相談窓口となる。(発達相談・療育機関・子育てサークル・予防接種・検診) ・公立幼稚園の今までの研修、研究、を元に宇治市の職員による特別支援教育コーディネーターを中学校ブロックごとに配置し、保護者や教員の相談窓口を一本化し、切れ目のない支援体制を整える。 ・3年保育の実施、駐車場の確保。 公立幼稚園のノウハウを教育・福祉・子育て政策に結びつけることで人口減少にも歯止めがかかり、子育てしやすい町として注目を集めると思います。国に先駆け子育ての窓口を統一し宇治市で子育てして良かったと思える政策になるよう期待しています。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、少子化が進行し、乳幼児数が減少していること、保護者の多様な就労形態等により、求められる教育・保育も多様化していることが挙げられます。 また、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することが求められており、一方で公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要があると考えています。 こうした状況を踏まえながら、公立幼稚園が果たしている役割などのいただいたご意見も参考にして、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし

No	意見 区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の 有無
24	公立就学前 施設(幼稚園) のあり方	今年度から市立幼稚園3年保育に子供を通わせています。 複数の私立幼稚園を含めて検討した結果、ドリルのような学習をせず、自然 や人とのふれあいの中で心を育む当園の方針に多大な魅力を感じ、入園を決 めました。 いま、我が子の毎日楽しくてたまらない様子や、汚れるのが苦手だった我が子 の体操服が毎日泥だらけになっているのを見て、良い選択をしたと心から感じ ています。 ですが、当園に決めるに当たって最大のハードルは、夏休み等休み期間の預 かり保育がないことでした。 私は、幼稚園の登園時間中の数時間のみ、パートタイムで仕事をしています。 幸い実家の母に預けることができるため、当園を選ぶことができました。 ですがやはり夏休み中、高齢の母に毎日預けることは難しく、職場に無理を 言って日数を減らすなど融通を効かせてもらっています。 このように恵まれた家庭・職場環境は稀だと思います。 なので、短時間でも仕事をしたい、と考えた場合、「夏休みの預かり保育がな いから」という1点で、まず選択肢から外れてしまうのです。 こども園でなくても、近くの私立幼稚園には入園申込みが殺到しています。 送迎バスや給食、教育方針などいろいろ違いはありますが、まずはぜひ、夏 休みの預かり保育実施についてご検討いただきたく、切にお願い申し上げま す。	現在、預かり保育については公立幼稚園全園で午後5時まで試行実施を 行っています。いただいたご意見も参考にして、今後の公立幼稚園を含めた 公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
25	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	宇治市に公立幼稚園3園は必要です。 宇治市の公立幼稚園の保育の質はとても高いと感じています。理由としては、幼児の興味や関心に応じた遊びが展開されていること、幼児が自分の好きな遊びにじっくりと取り組む時間の確保がされていること、先生たちが穏やかな心で幼児に接していること、先生同士が互いを認め合い、高め合っていることなど、宇治市の公立幼稚園には魅力があふれています。 しかし近年では園児数の減少が目立っています。少子化などの問題はありますが、何よりも大きな原因は3年保育・預かり保育実施に至るまで時間が掛かり過ぎた結果であると思います。現在、東宇治幼稚園のみ3年保育を行っていますが、長期休業中の預かり保育がないことや駐車場が確保できないことなどにより、保護者の園選びの選択肢の中から外れているように感じます。保育の内容を啓発していくことともに保護者の求めていることも受け入れながら、宇治市の公立幼稚園3園で今まで守ってきた幼児教育を存続させてもらいたいです。 ちなみに大久保幼稚園の廃園決定を新聞の情報で知ったときのような経験はもうしたくないです。そのとき、職員や保護者が協力して廃園撤廃を求めた署名活動をしたが、「卒園児なので残してほしい」「廃園にしないでほしい」と言う市民の方々の声をたくさん聞きました。市民の方々にとって心のよりどころになっている宇治市の公立幼稚園3園の存続を求めます。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、少子化が進行し、乳幼児数が減少していること、保護者の多様な就労形態等により、求められる教育・保育も多様化していることが挙げられます。 また、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することが求められており、一方で公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要があると考えています。 こうした状況を踏まえながら、公立幼稚園の保育の質や魅力などのいただいたご意見も参考にして、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし
26	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	公立幼稚園に現在小3と小1の子供を公立幼稚園に通わせていました。幼稚園ははじめての集団生活、なのに公立の幼稚園の人数の少なさにとても疑問を感じました。 人数が少ない理由は2年保育、神明幼稚園は預かり保育がありましたが、夏休み、早朝は預かってくれないし先生の配置の関係で、平日も預かり保育がない日がある。これでは、母が働きながら通わずのは無理に等しいです。 なぜ、3年保育にしてくれないのか？ なぜ、完全預かり保育保育じゃないのか？ こちらに意見を求めるばかりで、宇治市教育委員会からはっきりとした意見や回答はいつもありません。 公立幼稚園は誰でも通える。 私立幼稚園は入るだけで入学金や制服代で10万近くします。なんの補助もなくすぐ働けない家庭には厳しいです。また、私立幼稚園から公立幼稚園へ転園されてくる方はだいたい少し発達におくれがあるかたが多く、私立では厳しいみたいです。公立幼稚園をなくすなら、私立幼稚園へもっと柔軟に子供を受け入れる体制を宇治市からしっかり指導すべきです。	現在、預かり保育については公立幼稚園全園で午後5時まで試行実施を行い、3年保育については東宇治幼稚園で試行実施を行っているところです。預かり保育時間などのいただいたご意見も参考にして、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。 また、施設類型を問わず、すべての子どもが同様に学べるインクルーシブな教育・保育がなされるよう、取り組んでまいりたいと考えております。	修正なし

No	意見 区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の 有無
		以前公立幼稚園に通わせていた保護者としての意見です。 まず公立に通わせて本当に良かったと思います。もともと宇治市出身ではないので宇治での子育てを一からスタートしていくうえで私は公立幼稚園という選択しかありませんでした。自分が宇治市で子育てをしていくうえで一番親同士の距離も近いこと、たまたまベビーブームの時だったので近くの公立を選択する方が多かったこと、子どもを通わせる学区近くに幼稚園が有ることも理由にあります。もちろん見学も何か行事がある度に(運動会・移動動物園)参加して幼稚園がどのようなところかも見ながら決めました。 私立にしなかった理由はあまりに選択肢が多すぎたこと、幼稚園の間に教育ということとどこまでさせるべきかわからなかったこと、必要性を感じていなかったこと、幼稚園教育に合った教育費の範囲の幼稚園では無いこと、子どもの為に学区内での子育てを望んでいたこと。 でもほかの友人たちは①3年保育がない②給食がない③保育時間が短い④送迎が面倒⑤役員が面倒等で私立を選択された方も勿論います。 確かに上の子を通わすときは、まだ公立は午前保育週2回が当たり前のころ、しかも子どもが多くて抽選でしか入れないたくさんの方が私立になったのも事実です。今では信じられない人気でした。でも3年経てば状況は少しずつ変わり、人気は薄れてきて兄弟で通わせていたから当たり前のように公立に通っている幼稚園になっていき、私立幼稚園の良さを惹かれていく保護者も多くなりました。 ようやく私立幼稚園人気が出てきたことが分かってきたか？長い間歴代保護者会が挙げていた陳情書が通り午前保育週2→週1に変更になりましたが、私立にはまだ追いつくことが出来ず年々園児数が減るばかり、公立幼稚園のデメリットである①～⑤の内容の改善がないまま15年以上も経ち、大久保は私たちの子どもが在園時から園児数が少なく、保護者・先生方いろいろ工夫をしながら園児数確保で努力もしていましたが、最終的には老朽化などの理由を入れこまれて閉園、ようやく東宇治3年保育・神明・木幡一時預かりをスタートしましたが、私立のあまりの良い条件と時代によりか？公立をはじめから選択肢に入れない保護者まで出ています。 今の幼稚園選びの条件は公立のデメリットをすべて解消する私立幼稚園の仕組みであり、近年は保育預かり年齢をかなり下げてまで預かる幼稚園、園児数も定数も決めない幼稚園が有るためいくら公立を3年保育としたからといってこの条件に適う余地はないのです。 それに少子化・収入減で子ども1人でいいという考えの方々も増えています。一人の子どもに十分な教育費をかける傾向(コロナのことも影響は多少あるでしょう)		

No	意見 区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の 有無
27	公立就学前 施設(幼稚園) のあり方	公立を維持するためには、長年私立幼稚園との暗黙の約束である「公立全園3年保育にしない」ということをそんな約束がないというなら、東宇治を3年保育にしたときに全園3年保育になかったのか？もう少し在園保護者の意見だけではなくいろんな方向の意見を述べる場所が早い段階で無かったのか？と思います。 公立のメリットは①子どもと親の距離・親と先生方・用務員さん・地域の方との距離が近いこと。毎日の幼稚園までの送迎での親子の会話・地域の方との見守り・学内では危険な場所や交通のルール等親子で会話しながら楽しかった思い出。②年長年少各2クラス又は1クラスという少人数だからこそ園児たちが仲良く時には競い合い・けんかしてコミュニケーション能力が付いたり、いたわる気持ちが持てたこと、アレルギーの子どもがいたらみんなで助け合い、保護者もクリスマス会でどのようなものが食べれるか？等勉強にもなりました。③お弁当も小さなお弁当作り、あまり食べない子ども・偏食の子ども、お弁当参観はプレッシャーでしたがおかげで親も食事の大切さを学ぶきっかけにもなり研修会もを開いたり④保護者会は大変です、私も本部経験しましたが、他の園役員同士仲良くなり、いろんなことを作り上げていく達成感・苦労・それ以上に子どもたちが笑顔で喜びを見せてくれることを身近で味わえてとても充実し、小学校以降の役員等は特に大変と思うことなく受け入れていました。⑤①と重なりますが、本当に先生・用務員さんを含め地域の方に寄り添い見守られてた保育が出来たのが一番ありがたいことです。無理なく子どもたちが考え率先して行動できる環境づくり、安全に配慮した園内、少人数ならではのどんな子ども(発達・アレルギーなど)にも対応できる補助の先生方⑥家計にやさしい教育費。その分小学校以上に上がった後の教育費やレジャー費に充てられました。 募集要項公立を選択肢から外す前に今一度考えてほしい、子どもの為の幼稚園選びなのか？親の為なのか？親子の為なのか？ 最近公立を進めても、20年前と選ぶ条件は同じ、ただ前にも書いたように、保育預かり年齢の引き下げは大きな原因になっています。仕事をする母親も増えていきますのでそちらもあると思いますし、保育園教育や準備にも抵抗がある方も増えていきます。役員問題も大きな原因とも言えます。私立幼稚園ではあまりにもたくさんの在園数で役に全く当たらず、小中高・町内会などの役員になり、当たることが嫌で育成に入れない家庭、辞退権を何でも理由を付けてくる人、町内・子ども会に入ることをすら拒否をするなど、親の考えで子どもたちが必要とする場所を断ってしまう傾向もあり、虐待やひとり親家庭の子どもの把握もできない状態も、公立幼稚園が有ることで、定収入の家庭や選択肢のない家庭にも必要な場所だと思います。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、少子化が進行し、乳幼児数が減少していること、保護者の多様な就労形態等により、求められる教育・保育も多様化していることが挙げられます。 また、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することが求められており、一方で公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要があると考えています。 こうした状況を踏まえながら、いただいたご意見も参考にして、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
		私立に通わせたいけど、アレルギーや発達(療育増加傾向)があると加配を付けられないという理由で入園を断られたというケースをよく聞きます。でも公立に通わずには東宇治以外は駐車場がないからと断念する、それでも公立を選び3年保育対象の東宇治に入れて2年保育の神明に編入させてまで公立に通わず方もいます。その話を聞くとこれから先健常者の子どもだけを対象とする条件だけではなく、幅広いお子さんのニーズに合わせた公立の在り方も考えるべきとも思います。		
28	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	公立幼稚園の園児数の減少について 平成29年の提言書を踏まえ実施されてきた事は、十分に保護者のニーズにこたえられていなかったのではないかと。 (長期休暇中の預かり保育を実施していない・ニーズにこたえなかった年月が長すぎた・・など) 小学校との接続カリキュラムや幼児教育の実践など、私立とは違う特色を市民にアピールできてなかったのではないかと。	小学校との接続カリキュラムの作成等については、市全体の就学前教育・保育における保幼小連携の取組として進めてまいりたいと考えています。いただいたご意見を参考に、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし
29	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	『公立就学前施設は、基本となる教育・保育を実践することにより宇治市全体の乳幼児期の教育・保育の質を確保・向上させる取り組みを推進することが求められる。そのために人材育成を図る必要あり。公立という強みを生かし保幼小連携などの研究・実践を先導的に実施し、公私・保幼子ども園など施設類型問わず、宇治市全体の保幼小連携のための研究・研修機能や子育て支援機能の強化を図る役割も求められる。そのためには、それぞれの強みを活かして協働による研究実践を推進していく必要あり』について その通りだと思う。ただ、『適正規模の維持のために認定こども園化を視野にいれながら、基本となる教育を実践する公立幼稚園機能を残す』とは、どういうことか。その件について具体的なことは、今後、じっくり検討されるのか。実施にむけては、こどもや保護者に負担がかかるようなことになってはいけない。保育所の保護者、幼稚園の保護者、現場の職員の意見も十分に聞くべき。今の段階では、保護者も職員も認定こども園化を望んでいない人が多いのではないかと。	保護者の多様な就労形態等により、求められる乳幼児期の教育・保育が多様化している現状であることから、公立就学前施設の認定こども園化の検討や、公立幼稚園としては、これまで培ってきた教育・保育の機能が必要であることと考えています。 いただいたご意見も参考にして、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし
30	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	宇治市全体の乳幼児教育・保育の質の向上につながる取組については賛成します。 少子化が進む現在、長期的な視野で見た際に、定員割れしている幼稚園を幼保連携型認定こども園化するのには反対です。 宇治市内でも少子化が進んでいる地域とそうでない地域がある。公立幼稚園がこども園化されることで、地域ごと(大字)の出生数と、園の数の比率に格差が生じる恐れがあるため、安易に公立幼稚園をこども園化する事は反対です。	宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することが求められておりますが、一方で公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要があると考えています。 こうした状況を踏まえながら、認定こども園化も視野に入れながら、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討することが必要であると考えております。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
31	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	私自身宇治で子育てをする者として、市内でも少子化の程度には差があると感じます。その格差の中で、安易に公立幼稚園をこども園化することで子どもの数と園の数の比率に格差が生じてしまうのでは、と危惧しています。	宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することが求められておりますが、一方で公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要があると考えています。 こうした状況を踏まえながら、認定こども園化も視野に入れながら、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討することが必要であると考えております。	修正なし
32	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	公立幼稚園の存続を希望します。 私は、遊びを通して生きていく力を身につけるというコンセプトの幼児教室で働いた経験から、自由に遊ばせてもらえる公立幼稚園の教育方針はとても素晴らしいと思います。 例えば、私の子が通っていた幼稚園にはおもちゃとしてのドレスがありませんでした。しかし、子どもたちは自分たちで工夫してとても素敵なドレスを作って楽しんでました。小学校に入学した子が担任の先生から、「いろいろとアイデアがでてるんですね〜。」と言っていたのも公立幼稚園で遊びを通して、色々な経験をさせていただいたからだと思います。 幼稚園での「おはなしあそび」もとても記憶に残っています。コスプレ化している発表会ではなく、体操服でやるからこそ、こういう風に動くともっと、意地悪に見える、可愛く見える、大きいものが転がっているように見えると幼稚園児とは思えない工夫を色々考えていることを知ってとても驚きました。 また、教員研修がしっかりしていて、文部科学省による指導要領に基づいた教育を受けられるのも公立ならではのメリットだと思います。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、少子化が進行し、乳幼児数が減少する中、特に公立幼稚園の園児数は著しく減少し、子ども同士の触れ合う機会が減少するなど集団教育上の課題が生じています。 また、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することが求められており、一方で公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要があると考えています。 こうした状況を踏まえながら、公立幼稚園の保育の質や魅力などのいただいたご意見も参考にして、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし
33	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	定員割れをしている幼稚園をこども園にしてまで継続させることが、長い目で見た際に財政的にも賢い方法とは思えない。	宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することが求められておりますが、一方で公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要があると考えています。 こうした状況を踏まえながら、認定こども園化も視野に入れながら、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討することが必要であると考えております。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
34	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	公立幼稚園について述べます。 私立幼稚園も特色ある教育をされていると思いますが、公立においても、個性に寄り添い、無理強いせず自由にのびのびと、という簡単なようで難しい特色ある幼児教育をされていると思います。 近年の園児減少は保護者としても心配なことではありましたが、もっと早期に、時代に即した3年保育や、預かり保育などがあればと悔やまれます。 公立幼稚園は、先生方も経験豊富なベテランの方も多く、保護者にとっても頼れる存在です。送迎時など、先生に相談しやすい環境にあるので安心感があります。 保護者にとっても相談しやすい環境は、子育て環境日本一を掲げる京都府の方針にも合致していると思います。 また、その相談しやすい幼稚園が「身近にあること」が大事です。近くにあるからこそ安心して相談に行けます。 これ以上公立をなくしてはいけないと思います。 今後、こども園への変化があるかもしれませんが、保育時間が長くなり、保護者の就業形態も様々になると思います。しかし、先生方が今のように子供に寄り添い、質の高い教育をしてくださるよう環境を整えて頂きたいと思います。 公立の幼稚園での教育を充実させ、「どの子も切れ目なく小学校に繋げていく体制」を公立幼稚園から宇治市の幼稚園全体に繋げていくことで、子育て環境日本一に繋がって行くと思います。 是非、「宇治市にいれば公立にも力が入っていて子育てを支援してくれる」と評判になるようになってほしいと思います。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、少子化が進行し、乳幼児数が減少していること、保護者の多様な就労形態等により、求められる教育・保育も多様化していることが挙げられます。 また、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することが求められており、一方で公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要があります。 こうした状況を踏まえながら、公立幼稚園の保育の質や魅力、果たしている役割などのいただいたご意見も参考にして、認定こども園化も視野に入れながら、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし
35	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	宇治市立幼稚園が大切にしている一人一人に合わせた幼児教育を守ってほしいです。 園児数減少は現実として受け止めなければいけません、現在の保護者ニーズと宇治市立幼稚園とはかけはなれていると思います。現在の保護者の声やニーズをしっかりと受け止め、そのズレをしっかりと精査し、改善した上で決断をくだしてほしいと思います。人数が少ないから、廃園にする、こども園にするという横暴だけはやめて頂きたいです。 何か決断する時にはきちんと説明し、全ての市民、在勤の納得の上でお願いします。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、少子化が進行し、乳幼児数が減少する中、特に公立幼稚園の園児数は著しく減少し、子ども同士の触れ合う機会が減少するなど集団教育上の課題が生じています。 また、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することが求められており、一方で公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要があると考えています。 こうした状況を踏まえながら、公立幼稚園の保育の質や魅力などのいただいたご意見も参考にして、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
36	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	公立幼稚園の園児数の減少は、早くから要求があった3年保育を実施して来なかったからで、公立幼稚園の保育内容が良くて行かせたいと思っていた親はたくさんいました。 園児数の減少を理由に廃園などは決して行うべきではないと考えます。3園とも残してください。そのために全園で3年保育、預かり保育など親のニーズの合ったやり方をしないと園児数は増えません。宇治市のやり方は増えないのを待っているようにさえ思えます。 公立施設を大切にしてください。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、少子化が進行し、乳幼児数が減少する中、特に公立幼稚園の園児数は著しく減少し、子ども同士の触れ合う機会が減少するなど集団教育上の課題が生じています。 また、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することが求められており、一方で公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要があると考えています。 こうした状況を踏まえながら、公立幼稚園の保育の質や魅力、果たしている役割などのいただいたご意見も参考にして、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし
37	公立就学前施設(幼稚園)のあり方	第1章で乳幼児期の教育・保育の基本理念の観点が見点あげられており、どれもその通りだと思います。でも、その観点が第2章の3宇治市の公立施設における取組の(1)になぜつながるのか分かりません。「宇治市全体の教育・保育の見込量・需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持する」というのは、どういう意味なのでしょう？第3章で「認定こども園化も視野に入れながら基本となる教育・保育を実践する公立幼稚園機能は残していく必要がある」も、機能は残すが幼稚園は止めて認定こども園にすることなののでしょうか？昨年度の公立幼稚園の在園児数は神明で定員65に対し21。東宇治で90に対し62、木幡で65に対し17でした。3園とも定員割れですが、3年保育を試行実施している東宇治は3歳児20人、4歳児20人、5歳児22人のクラスでちょうどよい集団の人数だったと思います。今や保護者のニーズは3年保育だと思います。来年度、神明や木幡でも3年保育を導入すればきっと入園希望者が増え、東宇治のような適正な規模(集団)の教育・保育ができると思います。就学前の特別支援教育の実践が小学校に繋がって更に積み上がる、これは公立幼稚園の大きな魅力です。この魅力が伝わるのが保護者の子育て不安を減らすことになると思います。公立就学前施設が市域全体の乳幼児期の教育・保育の質を確保・向上させる核となることが最も重要だと私も思います。	宇治市において、少子化が進行し、乳幼児数が減少する中、特に公立幼稚園の園児数は著しく減少し、子ども同士の触れ合う機会が減少するなど集団教育上の課題が生じていることから、教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することが求められております。また、保護者の多様な就労形態等により、求められる乳幼児期の教育・保育が多様化している現状であることから、公立就学前施設の認定こども園化の検討も必要であると考えています。 いただいたご意見も参考にして、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし

No	意見 区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の 有無
38	公立就学前 施設(幼稚園) のあり方	私は、「宇治市のこどもは、宇治市が(で)育てる」という理念をベースに、公立学校園を同心円の軸として、公教育を推進する責任が宇治市には有ると思います。市は市立幼稚園を私立幼稚園と同等に扱うが、まずは公があって、次に民(私学)が続く。日本国憲法や教育基本法、学校教育法、地方教育行政法に則り、市民の教育を受ける権利を保障し、公教育を守る使命を宇治市は果たさねばなりません。京都府第2の都市である宇治市が幼稚園公教育を、8園時代から培ってきたノウハウを次世代に繋いでいく大きな役割を放棄するなぞ有り得ない事です。府下第2の都市としての矜持をもって欲しいものです。 「京都府第2の都市である宇治市が、“宇治市のこどもを宇治市が守り、育てる”ために、公立(市立)幼稚園をどのように活用すべきか」 ①長年培ってきた宇治市立幼稚園の教員のノウハウやDNA、地域性を基盤として、日頃の教育活動(保育)に加え、調査、研修、研究を実践し、幼児の成長や子育て世代へ寄与する役割を果たす。また、宇治市のみならず、実践成果を、近隣市町の公立幼稚園こども園と共有し、山城地方のリーダー園として牽引していく。(市、地域の研究実践園となる) ②実践成果を基に、地域の子育て世帯の相談や情報提供を担う役割を果たす(幼児教育センターの併設)＜①②のモデルは川崎市＞ ③地域に開かれた公立(市立)幼稚園とするために、地域にも、対外的にも、成果を評価してもらう。(学校評議員制度の導入) ④未就労、非共働き家庭のニーズにも応え、公立(市立)幼稚園を選択する市民の権利を保障する。 ⑤(市が果たしてこなかった)園児数増加のために、喫緊、3年保育の完全施行、預かり保育時間の延長、給食の導入を図る。 ⑥公立(市立)幼稚園(若しくは、いずれ転換されるであろう幼稚園型公立認定こども園)は、市域を二分割し、2園設置する。 そして、上記を実施する上で、最も重要なポイントですが、公立(市立)幼稚園を小学校に隣接、若しくは併設することが、肝要かと考えます。幼小中の校種間連携を推進する為にも、併設(隣接)が不可欠です。小中一貫校に何故、公立(市立)幼稚園を含めたグランドデザインを描いて再編しないのか。この点は明らかに市の「失策」かと言わざるを得ません。幼稚園を存続させるにせよ、こども園に転換するにせよ、公立園と公立校、共に公立であるメリットを最大限に生かして連携活動を図ることができないものではないのでしょうか。宇治市の未来を担う「宇治っ子」の育成のためにも、連続性を担保した公立学校園を設置せねばならないのではないのでしょうか。 もし、これが実現すれば、宇治市はもとより近隣の市町に先んずる大きな教育成果を残せると思います。 以上の施策を実施すれば、公立(市立)幼稚園に新たな息吹をもたらし、宇治市の乳幼児期の教育・保育の今後のあり方にも、発展性を大なり小なり与えられると思います。 宇治学や輝け！宇治っ子のためにも、「宇治市のこどもは宇治市が(で)育てる」ためにも、ご検討の程、宜しくお願い申し上げます。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、少子化が進行し、乳幼児数が減少する中、特に公立幼稚園の園児数は著しく減少し、子ども同士の触れ合う機会が減少するなど集団教育上の課題が生じています。 また、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持することが求められており、一方で公立幼稚園としてこれまで大切にしてきた基本となる教育・保育の実践は引き続き継続していく必要があると考えています。 こうした状況を踏まえながら、いただいた様々なご意見・アイデアを参考にし、認定こども園化も視野に入れながら、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
39	その他要望等	意見 一時預かりについて 祖父母が遠距離及び高齢の為、保育を頼む事が出来ず、両親に用事が出来た際に通っている保育園に一時預かりをお願い出来るか聞いた事があります。 保育園側からは基本的には両親、祖父母で都合をつけて家で見て欲しいとの返事でした。 他の一時預かりも考えましたが、慣れない所だと子供も不安になるだろうと思い、断念した事があります。 用事で一時預かりが難しそうだったので、育児に行き詰まって預けたい という理由では絶対に無理だなという印象です。→リフレッシュしたいなんて理由にならないと思われるのでは？ ですが、保育園側の言い分もわかります。 簡単に預けれれるとなると運営も大変だと思います。1人受け入れると、その分保育士さんの負担になるので、、、。 そのあたり難しいとは思いますが、子育てをよりよく出来るようになっていけたらなと思いました。	保育所等での一時預かりは、保育所等に入所していない、おおむね1歳～就学前の児童を対象としております。 他の制度として、宇治市ファミリー・サポート・センターなどもありますが、いただいたご意見を参考に、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし
40	その他要望等	公立幼稚園での延長保育も1時間200円は高いなという印象です。30分ごとの料金設定にしてもらえたらなーと利用した時に思いました。	預かり保育については、公立幼稚園全園で試行実施中です。今後の公立就学前施設のあり方の検討とともに、利用料金を含む預かり保育の内容についても、引き続き検討してまいります。	修正なし
41	その他要望等	宇治市の公立保育園に子ども達を通わせつつ、京都市内に通勤しています。保育園では、保育士の方々から子ども達をとてよく見てもらっています。毎日、連絡帳に子どもの様子を書いてくださり、それだけでも丁寧に保護者とも関わってくださっていると感じています。 一方で、施設の老朽化は問題だと思っていて、園庭の水はけも悪く、送迎の際に盛大に濡れてしまうことがあります。園庭遊びの際も水はけが悪いと、保育士の方が整備しなければならず、施設メンテナンスよりも子どもと関わってもらう時間を確保してもらいたいと思っています。	今後の公共施設整備について、宇治市公共施設等総合管理計画では、公共施設の現状と課題を整理し、持続可能な市民サービスを提供するため、厳しい財政状況を踏まえた、施設総量の適正化、長寿命化などを行い、将来の費用縮減に取り組んでいます。 公立幼稚園や保育所についても、当該計画の対象施設であることから、公立就学前施設のあり方を検討する際に、当該計画とも整合性が取れる形で検討してまいります。	修正なし
42	その他要望等	意見書の内容が抽象論や一般論しかないため、批判のしようもなく、ここから議論を発展させることは難しいです。せっかく宇治市で議論するのであれば、宇治市特有の課題を問題提起していただきたいです。例えば、都会と比べて商業施設が少ないため、乳幼児を連れて行ける場所も少なくなります。夏は暑さのため室内の施設にしか子どもを連れて行けないですし、そもそもまだ歩く前の乳児は公園などでも長い時間遊べません。まずはシンプルに乳幼児が熱中症などの危機におおえることなく、時間を過ごせる居場所をつくってほしいです。現状でも子育て支援拠点はありがたいですが、使用できる曜日や時間帯が限られています。	宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会は、宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く様々な課題について、主に公立及び私立、民間の就学前施設それぞれが果たすべき役割や、これらの就学前施設における具体的な取組の方向性について検討するために設置しました。 子育て支援拠点は、就学前の子どもとその保護者が無料で利用し、交流できる「ひろば」ですが、施設によって使用できる曜日や時間帯が異なります。 いただいたご意見を参考に、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
43	その他要望等	いつもよりよくする宇治市運営ありがとうございます。 保育制度について意見をさせていただきます。 現在、私自身も3歳の子供がおり、夫婦共働きです。 現在は、公立保育所希望で待機中です。 当初は妻の育児休暇が終わったら保育園入れようと考えていました。が、非常に高い保育料と0歳から入れるよりなるべく一緒に育もうと考え家族の協力もあり会社に連れて行ったりして過ごしています。 3歳になったので運動量も気になり始めたので1番近い公立保育所を希望したら、常に定員が埋まっていて、0歳から入れないとなかなか入れない。とのことでした。 ん？なんだそれ？と率直に感じています。 なら3歳からは入れないのか。と 現在の保育制度は、収入でも差別化され、家庭状況でも優先順位がつけられ、おかしいと感じます。 子供を全て平等ではないのでしょうか？ 収入によって1ヶ月の料金が違うのも気になります。	宇治市では、公平性及び平等性の観点から、以下のとおり保育所等入所基準及び保育料を定めておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。 ・保育所等入所選考基準 保育所等入所選考基準を定め、「基本点数表」、「調整点数表」、「同一点数となった場合の優先順位」の3つで構成しています。 「基本点数表」は、保育を必要とする要件に対して、点数を設定しています。保護者が2人の場合は、その合算した点数が当該世帯の基本点数となります。 「調整点数表」は、該当する世帯状況等に応じて、加減点を行うためのものです。 基本的には、「基本点数表」と「調整点数表」の合計点数が申込世帯の点数となり、合計点数の高い順に入所決定を行いますが、合計点数が同一点数となった場合に「同一点数となった場合の優先順位」に基づいて、順位を決定しております。 ・保育料 保育所等に通う子どもの年齢区分と保護者の市町村民税額(合計額)により決定します。市町村民税額は、住宅借入金特別控除(住宅ローン控除)や寄付金控除等の税額控除の適用前の税額で決定しております。	修正なし
44	その他要望等	幼稚園も保育園も、お散歩している姿を見かけることがあるので、横断歩道消えかけてるところを直すなど道路状況の改善や、一時停止無視の車の取り締まりを強化してほしいと切に思います。	いただいたご意見は、今後の行政運営の参考とさせていただくため、関係部署又は関係機関と情報共有を図ります。	修正なし
45	その他要望等	健診は細かくよく見てくださっていると感じました。早いうちに療育などに繋がってもらえるのは親子両方にとってありがたいことだと思います。 子が幼稚園に入る前に支援センターにはとてもお世話になりました。 子供が外の世界に触れるだけでなく、親にとっても他者と触れ合えるありがたい場でした。	いただいたご意見をもとに、今後も、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
46	その他要望等	長男が言葉があまり出てこない…と健診で話すと、コアラ教室を紹介してくださいました。結果として幼稚園に行った息子は、あれよあれよと話だし、聞き上手だと思っていた息子は、お喋りマンになりました。そこで感じたことが二つあります。一つは「私が1人で子育てしてるんじゃない」と思えたこと。市職員の方や幼稚園の先生方と一緒に、息子の成長を考える時間はとても有難いものでした。長男といえども4番目の子供(上に姉が3人います)ですので、初めての育児ではなかったので、発達に関してそんなに思い詰めることはありませんでしたが、これが初めての子育てとなると、「うちの子だけ喋れない」と思い詰めて焦っていたと思います。息子は私だけじゃなくて、たくさんの人に支えられて生きている！そう思えたことが嬉しかったです。 二つ目は「親と離れてお友達と触れ合うことの大切さ」です。子供の表情ひとつで全てをわかってしまう親から離れ、幼稚園に行き出してから自分の思いを言葉にすることがとても上手になった息子です。マスクで顔が半分隠れている時代が続いてもう、3年。公園に行っても暑すぎる！家の前の道路で遊ぶと近所迷惑！交流する場所は、コロナの為にほぼ閉鎖！お友達と過ごす時間が極端に減ったように思います！コロナから身を守ることももちろん大切ですが！やっぱり人は、人と出会い、繋がり、会話をして、たくさんの表情や表現を学ぶことで成長していくんだと感じました。第7波がきた今、またなかなか難しそうですが、あれダメ！これダメ！と子供の遊びに制限をかけずに子供たちが交流できる場所があるといいなと思いました。	いただいたご意見をもとに、今後も、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし
47	その他要望等	東宇治幼稚園のことをほとんど知らないという方が、実はとても多いことをご存知でしょうか。 近所のいろんなお母さんと幼稚園選びの話をしたのですが、通常時の預かり保育があることを知らなかった方、そもそも東宇治幼稚園の存在を知らなかった方もいらっしゃいました。 また、「ただ遊んでいるだけの幼稚園」という方もいらっしゃいます。 私も「こんな遊びから、こんなことを学ぶのだ」といろいろ知ったのは、東宇治幼稚園に興味を持ったあとでした。 東宇治幼稚園はとても魅力的です。 幼稚園の存在と魅力を、目に留まりやすい形で伝える方法(市政だよりに紹介を載せるとか?)をご検討いただければと思います。 興味を持っていない人に知ってもらう広報ができれば、それだけでも園児は増えると思います。	公立幼稚園のPRにつきましては、教育内容とともに預かり保育の様子等を、各園のホームページで毎月発信するとともに、各園において内容を工夫して実施している未就園児活動について、宇治市LINEや宇治子育て情報誌等活用して広報を行っています。引き続き広報を行うとともに、情報発信の方法については、検討してまいりたいと考えております。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
48	その他要望等	私は子供を幼保連携型認定こども園に通わせています。所謂、“評判の良い園”に通わせる事ができ、子供の教育、体験、感染症対策に至るまで、良くやってくださっていると感謝しています。 だからと言って、金銭的負担が大変という程ではありません。しかしながら、こういった園に通いたい希望がありながらも叶わず、他の園に通っているという方も多くいらっしゃると思います。 “評判の良い園”とそうでない園の違いはやはり、雇用者の質も含めいかに予算を子供の育成の為に使われているかだと思います。 ある程度、各園の取組や在籍園児の人数によって補助金の支給はなされていると想像できますが、その補助金が各園で適正に使われているのか現場レベルで確認が出来る事が大事では無いかと思います。 宇治市内の幼稚園、保育園共に個性的な園が多くありますが、それらの各園で適正に補助金を使われているか現場レベルで見る事により将来の優秀な納税者を育てるという、子供を育てる目的が達成されると思っています。	宇治市では、社会福祉法人に対する助成に関する条例及び同施行規則に基づき、社会福祉法人が経営する保育所等の運営、施設整備及び特別保育事業に対し、補助金を交付しています。 宇治市においても引き続き、規則等に基づき当該補助金に係る補助事業の成果が交付決定の内容等に適合していることを確認するとともに、いただいたご意見を参考に、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし
49	その他要望等	子どもが乳児期より長くこども園にてお世話になっております。共働きの家庭が増加しているなか、0才児でも預かってくれる体制のある施設があることに大変感謝しております。ありがとうございます。「宇治市の…あり方」ですが、内容を一読し、「宇治市の乳幼児期の幼稚園・保育所・こども園の今後のあり方」のみしか記述(言及)されていないことに大変違和感を覚えます。 乳児期・幼児期の教育・保育は、家庭および地域でも行われるべきものです。現状として、共働きの家庭が多く、やむなく保育所を利用することもあります。が、家庭で保育・教育する際の支援について全く記述がありません。地域の児童公園の整備や遊び場の確保、様々な体験施設の充実など(イベントも含む)も、大切な教育の場の一つではないでしょうか。もしも、主に3施設についてのみのあり方であればタイトルは変えて下さい。ちがうのであれば、他オルティナブルスクール(フリースクール)や家庭内保育の記述は必ず必要ですし、本来はこちら(家庭)がメインであるべきです。家庭が本来行うべき教育・保育を様々な理由(仕事の都合、集団でのメリットなど)で市やその他の機関を利用しているという認識ですが、いかがでしょうか？	宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会は、宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く様々な課題について、主に公立及び私立、民間の就学前施設それぞれが果たすべき役割や、これらの就学前施設における具体的な取組の方向性について検討するために設置しました。 第1章に記述のとおり、乳幼児期の教育・保育の基本理念と目指すこども像についても意見交換を行いました。そこでは、全ての子どもたちが将来に夢と希望をもち健やかに育つため、乳幼児期の子どもたちが輝ける環境をつくっていくには、地域、家庭、就学前施設間できめ細やかな連携が必要であるとし、就学前施設に限っていないことから、表題につきましては、案のとおりとさせていただきます。	修正なし

No	意見 区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の 有無
50	その他要望 等	この時期の子どもの学びの大切な要素は、遊びだと考えております。「能動的に問いを見つける」のも遊びの中から生まれると思うのですが、意見書の中では、どうも“就学前の準備期間”のようなニュアンスを受けてしまいます。 “就学前”という言葉がおそらくそうさせるのだと思いますが、学校教育を基本としてそれを軸にした内容が想起されます。 「現在を最もよく生きること」が、イコール「教育」「保育」ではなく、これ（現在を最もよく生きること）を達成するための手段が「教育」と「保育」です。子どもが中心となる（主役となる）教育・保育であってほしいです。現状感じているのは、「働く親のための保育」「小学校へスムーズにあがるための教育」となっていないかという点です。私はなってしまうと思います。	保幼小の連携は、教育・保育の質の確保・向上及び非認知能力をはじめとする子どもの力を伸ばすために行うものであると考えております。 ご指摘のとおり「働く親のための保育」「小学校へスムーズにあがるための教育」とならないよう、保幼小連携に向けた架け橋プログラムなど、教育・保育の質の向上に向けた研究、研修を、施設類型を問わず私立幼稚園や民間保育所・認定こども園と連携・協働して実施するとともに、これらの研究、研修機能の強化を図ってまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
51	その他要望等	「P2:子どもが現在を最もよく生きること。子どもが人として輝き、その輝きをつないでいくこと。P3:子どもたちが能動的に問いを見つけるような…」とありますが、これらはどこに反映されていますか。ユネスコの子どもの権利条約にもありますが、第3条「子どもに関係のあることを行うときは、子どもにもっともよいことは何かを第一に考えなければならない」と同じです。 今、子どもは大人と社会の犠牲になっていませんか。自分たちはほとんど重症化もしない病気のために ・ワクチンを打たされ、・マスクをつけさせられ、・PCR検査を受けさせられ、 ・毎日検温され、・1人の欠席で行事が中止や延期になり、・毎日の食事は黙食で、アクリル板越し・症状がなくても登園できない 例えば、他の利用者もいる施設であれば致し方ないです。しかし、上に記述したのは「子どものための施設」で行われていることです。子どもたちの成長(教育・保育を含む)のためになっていないことが当たり前のように行われています。乳幼児が重症化すると命に関わるRSウイルスでも園や施設でこうした対策が行われたことはきいたことがありません。 100倍もリスクが低い病気に対して、子どもの人権が大切にされていないことに大変憤りを感じています。 宇治市の教育だより91号より 一部抜粋 今までとはちがう新しい社会の中においても、「人は人の中でしか育たない」ということは、不易なものであると考えます。……現在感染症対策として回避している「密」は本来最も大切な要素であります。……必要な「密」が許される学校に戻ることを期待してやみません。…… 宇治市教育長 岸本文子 教育に携わる人間が子どものことを第一に考えて発信している。素晴らしいことです。現状、どの子どもに関わる施設、教育機関においてもこういったことを思っただけでも意見として上げる人がいません。厚労省＞文科省という力関係があってはなりません。どうか子どもの教育と子どものコロナ感染、それぞれリスクとベネフィットを再検討の上、教育についてあり方を考えていただけたらうれしいです。	2ページ、3ページの内容につきましては、「乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方」として、「乳幼児期の教育・保育の基本理念」として、検討委員会でいただいた意見です。その意見を基に、今後、基本理念の検討を行うことが必要であると考えております。いただいたご意見を参考にまいります。	修正なし
52	その他要望等	毎回のことながらパブリックコメントの募集が分かりにくすぎます。市民だよりに取組をのせて配布しているように、せめて関係のある世帯ぐらいは印刷して配布しませんか？閲覧板で回すとか方法はあると思います。	パブリックコメントの募集方法等につきましては、それぞれの実施機関においてより良い方法を検討してまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
53	その他要望等	教育に携わっておられる方々が共通に認識されている乳幼児期の教育・保育の今後のあり方と同じだと思うので、内容に反対はありません。 ただ、宇治市の乳幼児の教育・保育の今後の具体的な取り組みの方向性について議論され、取りまとめたとのことですが、抽象的な文言が繰り返されており、それに対する宇治市としての具体的な取り組みの方向性は分かりませんでした。 今回の意見書(案)は、第1・2章が一般的に認識されている背景及び課題で、第3章が解決への決意の構成かと思いました。次章に具体的な内容をピックアップしながら解決した宇治市としての取り組みに関する章を立てると分かるかと思いました。 日頃は子どもたちのためにご尽力をいただきまして、誠にありがとうございます。厳しい意見を書き、申し訳ありませんが、1つの感想としてお受け取りください。	宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会は、宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く様々な課題について、主に公立及び私立、民間の就学前施設それぞれが果たすべき役割や、これらの就学前施設における具体的な取組の方向性について検討するために設置しました。 この意見書は、宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会が作成したものです。 この意見書に基づき、宇治市及び宇治市教育委員会として、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし
54	その他要望等	私立幼稚園も運営していく為に経営方針で園児数を維持して、たくさんある幼稚園の中から生き延びるため必死なのはわかりますがもう少し宇治市の為にも寄り添ってほしいと思います。	私立幼稚園においては、これまでの間、宇治市における教育・保育の一翼を担ってきており、それぞれの施設が保護者ニーズや社会情勢の変化に応じた特色ある独自の教育・保育を実践することで、宇治市の乳幼児期の教育・保育の質の向上が図られてきています。また、地域や家庭と連携し、子育て相談や地域行事への参加に取り組むなど、地域に根差した拠点施設としての役割も果たしてきています。今後更なる教育・保育の質の向上、社会的役割が求められる中で、私立幼稚園には引き続きこうした取組を公立施設と協働しながら実践し活躍されることが求められます。	修正なし
55	その他要望等	幼稚園を選ぶ際に、英語を取り入れている、預かり保育の時間が長め、車で送り迎えがしやすい(駐車場がとめやすい)というところは魅力的に思えました。英語については、小学校から英語が取り入れられていることから幼稚園で楽しく学べるというのは嬉しく思います。実際に子供が幼稚園から帰ってきて、習ってきた英語を教えてくれたり、遊びながら口ずさんでいる姿をみたりします。 預かり保育については、働く場所によっては預かり時間が短いと働く時間も制限されるので17時や18時ころまでであると安心できると思いました。また、2人目を妊娠した際に妊婦検診に行くのに、夕方の予約しか取れなかったが、預かり保育があり安心して行けた。コロナの影響で子供を病院に連れて行きにくかったのも私にとっては重要でした。	現在、預かり保育については公立幼稚園全園で午後5時まで試行実施を行っています。英語学習や駐車場の内容などのいただいたご意見も参考にし、今後の公立幼稚園を含めた公立就学前施設のあり方について検討してまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
56	その他要望等	少子化の進行を防ぐ対策を宇治市としてどう考えているのか。 子どもの全体の人数が増えないと施設間での子どもの取り合いになりかねない。 コロナ禍で経済的にも受診の事を考えても出産を控えている人が多いのでこの事態が収まらないと難しいかもしれないが。 宇治市に転入したいと思える、子育てをするのに魅力的な街づくりをすすめてほしい。	少子化の要因の一つとして、未婚率の高まりと少産化があることから、これらの解消に向けて、宇治で結婚・出産したいと思えるイメージの形成と子育て不安や負担感の軽減をはじめ、妊娠期からの子どもの発育・発達への切れ目のない支援など、安心して出産できる環境づくりや支援を実施しているところです。 いただいたご意見を参考に、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし
57	その他要望等	『発達障がいや医療的ケアを要する子どもなど、配慮や支援が必要な子どもや家庭』とあるが、他にも【生活困窮や虐待など家庭に配慮や支援が必要な子ども】も明記した方が良いのではないかと。	挙げていただいた事項は、子どもを取り巻く環境の大きな変化の1つとして考えられるため、1ページ「はじめに」の2段落目1～2行目にかけて「子育て家庭の孤立化などによる虐待の増加」と追記いたします。	<u>修正あり</u>
58	その他要望等	公立施設取組に『療育など福祉と連携した施設への支援体制を強化すること』とあるが、公立の療育施設としてセンター的な役割をもつ施設を新設してはどうか。 そうすれば、より連携がスムーズになり、支援が強化される。 公立施設で障がい児を多く受け入れているが、施設内での研修・研究以外に個人の努力によることも大きい。民間の療育施設と連携をとるためには、保護者の経済的負担も伴う。公立と並行通園している子どもについては、民間の療育施設などがそれぞれの方法で療育されているので方針・考え方にばらつきがでる。公立の療育センターが宇治市内にあれば、たとえコロナ禍であっても連携がとりやすく(コロナ禍では他の自治体の療育施設や民間の施設との直接のやりとりができていく)、より障がい児保育の質を向上させることができ、公民の人材育成にも役立つ。	宇治市では、現在、発達支援事業所として民間の施設が4園あり、発達に課題のある子どもに対する療育に取り組んでいただいております。 引き続き、宇治市と発達支援事業所等と連携・協働し、一人ひとりに寄り添った取組に努めてまいります。	修正なし
59	その他要望等	この意見書を踏まえ、全ての子どもたちが夢と希望をもって成長していけるよう、全ての就学前施設(公立・私立、幼稚園・保育所・こども園など)がそれぞれの役割を十分に果たしていけるよう、宇治市がリーダーシップをとり、市民・現場の意見を聞き、討論を重ねて意見をまとめ、責任をもって実施、サポートしてください。	いただいたご意見を参考に、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし
60	その他要望等	全ての公立就学前施設には、地域から信頼され、頼られ、必要とされ、存在意義のある施設、地域に根ざした施設であるよう、人材育成に力を入れ、より一層活躍できる場を作ってください。	いただいたご意見を参考に、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
61	その他要望等	給食の充実を希望する 量が少ない、種類が少ない 乳幼児の発育の安全のためにできるだけ減農薬、無農薬、有機栽培、自然栽培の野菜や地産地消の食材を使ってほしい 乳幼児期こそ安心安全な食材を摂ることが望ましいと思う 食べたもので身体は作られる 食の安全をもっと気にかけてほしい 駐車場の充実をお願いしたい 周辺道路にも影響が出ていてかなり心苦しい 混雑により徒歩、自転車での通園も危ない 先生同士の私語が多い あまりしっかり子どもを見ていないように感じる	いただいたご意見を参考に、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし
62	その他要望等	宇治の宝である子どもに財源を割くのは、未来の宇治をつくる重要な投資であると考えます。他府県・市町村から宇治に転入したいと思う子育て世帯を増やすためには、宇治の教育・保育の質を広く発信するコンテンツの充実が求められると考えます。	子育て世代の本市への移住・定住につなげていくためには、宇治で結婚・出産・子育てをしたいと思えるイメージの形成とそれらの実現に向けた支援及び環境づくりにより、住みたい、住み続けたいまちになることが必要です。 いただいたご意見を参考に、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし
63	その他要望等	こども園、幼稚園、保育園から、小学校、中学校と、連携された、こども子育てができる町であってほしいと考えます。	保幼こ小連携に向けた架け橋プログラムなど、教育・保育の質の向上に向けた研究、研修を、施設類型を問わず私立幼稚園や民間保育所・認定こども園と連携・協働して実施するとともに、これらの研究、研修機能の強化を図ってまいります。	修正なし
64	その他要望等	第2章3(2)早期対応を目指すためには園と発達支援の専門家とのつながりの強化が必要である。 園から依頼するのではなく、ある年齢になると専門家の訪問があり健診のようなシステムで支援の必要性を見極め、関係機関につなげていくなど、市主導の体制になればよいと思う。似たようなことを行っている市もあると聞きます。	宇治市では、就学前の発達支援に関し、乳幼児健康診査、乳幼児相談、発達相談等において発達に遅れが生じている子どもについては、児童発達支援事業所を紹介させていただいたり、市が実施しているフォロー教室を案内したりしております。 引き続き子どもに寄り添った支援に努めてまいります。	修正なし
65	その他要望等	意見書を取りまとめる会議を傍聴していないので、議題内容がよくわからない。どういう取り組みを行っているか発信することが欠けていると感じる。市民は行政、検討委で何が話し合われているのか受け取れていない。(行政の市政発信について)	宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会は、宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く様々な課題について、主に公立及び私立、民間の就学前施設それぞれが果たすべき役割や、これらの就学前施設における具体的な取組の方向性について検討するために設置しました。 検討委員会の開催経過につきましては、宇治市ホームページに開催に係る資料や会議録などを掲載することにより、周知を図っているところです。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
66	その他要望等	教育・保育の今後のあり方についてに關しての意見は、一元化、効率化が進みすぎていると感じる。団体や企業でなければ子育て、教育・保育ができない、やらない。と感じさせる内容だといつも感じる。個人個人、数人が集まった非団体が取り組めることを提案することや実際活動されているところを取り上げて市民の普段の暮らしや生活力を取り上げてほしい。 団体、企業が提供するサービスに依存しないと教育・保育、生活ができないと錯覚させられてしまう。 幼児期の教育が終われば、学校、塾通いの生活が続き、家族が同じ家に住むだけで別々の時間管理の中で生活を営んでいる状態で、家族とは呼べない人間関係を作っていくことになるのではないかと感じる。 乳幼児期は特に、親子が接する時間が長くとれるような教育、保育の取り組みに努めてもらいたい。 そのためにも親自身の子どもと接する時間を用意する努力は必要だし、行政はそれを手伝ってもらいたい。 そのためにも団体、企業が用意する一元化の教育課程の中でサービスの向上を図ることより、数人が非団体に集まっている取り組みを充実させることに取り組んだり、取り組んでいるところを取り上げてもらいたい。	いただいたご意見を参考に、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし
67	その他要望等	公的施設・民間施設が連携し合い、教育・保育の質を上げていく取り組みは必要不可欠と考えます。ただ、挙げられた観点や理念は大切ではありますが、どうしても抽象的な表現になり、子どもの幸せとは？育てたい力とは？その方法は？など、大人たちが本質を共通理解することは本当に難しいと思います。未だに大人が喜ぶような見栄え重視の教育が重要視されている(施設・保護者両面とも)のもそのひとつと考えます。その辺りの共通理解に立った上での議論・また保護者が宇治で子育てをしたいと思えるような教育・保育の質を広く発信するコンテンツの充実を望みます。	宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会は、宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く様々な課題について、主に公立及び私立、民間の就学前施設それぞれが果たすべき役割や、これらの就学前施設における具体的な取組の方向性について検討するために設置しました。 検討委員会は、親のニーズに応える、大人の都合に合わせるということではなく、本来の子どもにとって必要な教育・保育ということを前提に、そのあり方について検討を行ってきました。 宇治市では、この意見書に基づき、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
68	その他要望等	日頃より、私たちの様な子育てをする市民の事を考えていただきありがとうございます。 現在9歳4歳1歳の子供がおりますが、1歳の娘は現在認定こども園の入園待機中で、自宅より遠方の一時預かりへ通っております。 現在の宇治市では園にこだわりを持たなければ比較的スムーズに入園ができるかと思いますが、空いている園が遠方等の理由から入園ができずにいます。 こども園を諦め、4歳の息子が通う幼稚園に預ける事も検討していますが私立幼稚園入園は満3歳未満ですと、保育料が認定こども園とかなりの差が出る事もあり、つい入園を躊躇してしまいます。 また幼稚園は入園できる年齢も高く長期休みもあるなどの理由もあり、認定こども園や保育所を希望する家庭が増加してしまうのではないのでしょうか。 幼稚園とこども園の入園年齢、入園後の保育料等がもう少し同じくらいになれば、こども園希望のご家庭も幼稚園入園を希望されるのではないかと思います。	幼稚園の入園年齢は「幼稚園に入園することのできる者は、満三歳から、小学校就学の始期に達するまでの幼児とする。」と、(幼保連携型)認定こども園の入園年齢は「幼保連携型認定こども園に入園することのできる者は、満三歳以上の子ども及び満三歳未満の保育を必要とする子どもとする。」と、それぞれ法律により定められています。 こうした状況を踏まえながら、いただいたご意見を参考に、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし
69	その他要望等	また、現場の先生方は宇治市の目指す子ども像を作るために乳幼児教育で何をすべきか、どうすれば教育環境がよくなり子ども達の為になるか最もご理解していらっしゃると思いますので、現場の先生方の声を聞き、先生方の日頃の保育に活かせる研修や助成を行なって頂ければ幸いです。	いただいたご意見を参考に、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし
70	その他要望等	乳幼児を伴い、宇治市以外の国内と海外の居住を経験しましたが、宇治市はとても子育てしやすい市だと思います。 子育て広場の充実、自然に囲まれた環境、選択肢豊富な保育施設等、他と比べても、とても充実していると感じています。 子供たち、教員、保護者すべての人が幸せに暮らすことが、子供たちの未来を創る基盤となります。 難しいこと目新しいことではなく、全員がごきげんに暮らせるよう基本を大切にしたい環境作りが今は必要ではないのでしょうか。 そのために私は以下の提案をします。 保育士、幼稚園教諭の待遇向上 日々子供たちに接し、成長を見守ってくださっているのは現場の先生方です。先生方が働きやすい環境、好待遇を提供することで自然と教育・保育の質の向上につながると思います。 若い教員の「人材育成」に目が向きがちですが、ベテランの先生方の「定着率」を向上させることも非常に重要だと考えます。また各種研究や研修も大切だとは思いますが、先生方への新たな負担を追加するのではなく、負担を軽減する努力が必要だと思います。	宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題として、宇治市全域の保幼小連携などの取組を公立、私立、民間、施設類型を問わず全市的に連携・協働して行うとともに、教育・保育の質の向上に向けた人材育成が求められています。 そのため、市域全体での職員同士の連携の強化及び教育・保育の質の向上を図るため、人材育成の推進や施設類型の垣根を超えた各種研究、研修の実施の場を設けることが必要です。 各種研究や研修の参加が新たな負担とならないよう、いただいたご意見も参考にして、施設類型及び職員としての経験年数に関係なく研修に参加しやすい環境づくりや職員同士の連携の強化を図ってまいります。	修正なし

No	意見区分	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正の有無
71	その他要望等	質の高い「保育内容」や「子育てしやすい町」をどんどんアピールすることにも力を入れてはどうでしょう？限られた大切な税金を本当に必要な場所に使ってほしいと感じています。	子育ての情報については、宇治市ホームページや宇治市LINE、宇治子育て情報誌などで情報発信を行っているところですが、いただいたご意見を参考に、よりよい情報発信の方法について検討してまいりたいと考えております。	修正なし
72	その他要望等	ここ数年、コロナで制限ある中での教育現場は視点も増え、先生方も臨機応変な現場判断が増え、通常の保育が難しくなることも増えたことと思います。それでも、こども目線でこどもを見守り導きだして下さる園の先生方には感謝しかありません。保護者とのコミュニケーションも大事にして下さるので安心して、こどもを預けられています。今後も園の方針にお任せ致します。	いただいたご意見をもとに、今後も、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進めてまいります。	修正なし
73	その他要望等	我が子が現在在籍する園では、発達の遅れのある子や、個別の支援の必要な子らに対して、とても親身になって相談に乗って下さり、見守ってくださっていると感じています。 しかし、発達障害のあるお子さんの親御さん方の中には、そのような支援を拒まれる方や我が子の障害を受け入れるという大きなハードルと闘っておられる方もいらっしゃいます。この春も、支援学校が良いのか…支援学級が良いのか…通常学級が良いのか…入学前に選択を迫られ、随分悩まれている方が近所にいらっしゃいました。 このように、ある時期に我が子の過ごす場を親が決め、1度決めればその後の変更がなかなか難しい…。また、支援学校への抵抗が強かったり、支援学級と通常学級、それぞれのメリット・デメリットについて情報が少なく、不安な日々を過ごされている方もいらっしゃいました。どの道を選ぶことが我が子にとって最適なのか…未来が見えないが故の親の心労は計り知れないものがあると感じました。 もう少し、障害や遅れのある子の選択肢が柔軟であり、それぞれ学校現場の先生方の生の声を聞くことができる場があれば、我が子を送り出す場に対しての不安は軽減され、保、幼、小の連携等も深く長く繋がれるのでは…と感じました。	宇治市では、教育相談や就学相談を早期から継続して行い、障害のある幼児児童生徒の教育的ニーズと必要な支援や「学びの場」について保護者の方と共通理解を深めながら、切れ目のない支援の充実に努めているところです。 いただいたご意見も参考に、就学前後の施設が密に連携して子どもの育ちと学びの連続性を保障するための取組を一層進めてまいります。	修正なし

令和 4 年 8 月

意見募集結果を踏まえた宇治市乳幼児期の教育・
保育のあり方検討委員会での意見書（案）修正箇所

① 1 ページ 2 段落目 1 ～ 2 行目

修正前

「さらには保護者の就労形態の多様化など」



修正後

「子育て家庭の孤立化などによる虐待の増加、保護者の就労形態の多様化など」

② 3 ページ【地域や家庭、施設の連携の観点】

修正前

【地域や家庭、施設の連携の観点】

- ・ 点と点が動きながら線や面を描き合うような連携を推進すること。
- ・ 連携（つながり）が子ども自身や保護者の安心感につながるように、きめ細やかに連携すること。



修正後

【地域や家庭、施設の連携の観点】

- ・ 家庭と就学前施設、地域の関係団体などの連携（つながり）が子どもの育ちや保護者の安心感につながるように、きめ細やかに連携すること。
- ・ 各就学前施設が小学校及び療育施設等と行っている連携を市全体で共有するとともに、こうした連携をさらに充実させること。

宇治市の乳幼児期の教育・保育の今後の
あり方に関する意見書

令和 4 年 8 月

宇治市乳幼児期の教育・保育の
あり方検討委員会

< 目 次 >

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
------------------------------	---

第1章 乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方

1 乳幼児期の教育・保育の基本理念・・・・・・・・	2
2 宇治市の目指す子ども像・・・・・・・・	3

第2章 宇治市における乳幼児期の教育・保育の課題と 今後のあり方

1 宇治市における乳幼児期の教育・保育の課題・・・・・・・・	4
2 宇治市における乳幼児期の教育・保育に求められるもの・・	4
3 宇治市の公立施設における取組・・・・・・・・	5

第3章 宇治市の乳幼児期の教育・保育の今後のあり方に 関する意見・・・・・・・・・・・・・・・・

	6
--	---

【参考資料】

1 宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会設置要項・・	9
2 宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会委員一覧・・	1 1
3 宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会検討経過・・	1 2
4 幼稚園・保育所(園)・認定こども園に対するアンケート結果・・	1 2
5 宇治市の状況	
(1) 人口の推移・・・・・・・・	1 3
(2) 就学前児童数の減少と今後の教育・保育等の量の見込み・・	1 4
6 宇治市の公立幼稚園・保育所の状況	
(1) 公立幼稚園・保育所の概要・・・・・・・・	1 5
(2) 小・中学校区別幼稚園及び保育所等の設置状況・・	1 6
(3) 支援や配慮を必要とする乳幼児への対応・・・・・・・・	1 8

はじめに

乳幼児期は、子どもたちが生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。乳幼児期の子どもは、日々の生活や遊びなどを通して、身体的成長に加え、生きる喜びや意味、心の豊かさや思いやり、社会性を育み、人としての生きる力の基礎を獲得していきます。

近年、少子化や核家族化の進行などの今日的な課題、子育て家庭の孤立化などによる虐待の増加、保護者の就労形態の多様化など、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。このような中で、特別な配慮や支援を必要とする子どもをはじめ、様々な状況にある全ての子どもたちの育ちと学びを保障していくため乳幼児期の教育・保育の一層の充実を図っていく必要があります。

平成24年に成立した「子ども・子育て支援法」に基づき、平成27年には、質の高い乳幼児期の教育・保育の総合的な提供、保育の量的拡大・確保、地域における子ども・子育て支援の充実等を目的とした「子ども・子育て支援新制度」が開始されました。

また、平成29年に幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂（改定）され、施設類型に関係なく、非認知能力をはじめとする子どもたちに育みたい資質・能力の育成を図るため、質の高い教育・保育の提供が求められています。これらの乳幼児期の教育・保育の質の確保・向上に関しては、文部科学省の「幼児教育の実践の質向上に関する検討会」や厚生労働省の「保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会」等で国において検討されているところです。

宇治市においては、私立幼稚園や民間保育所・認定こども園が乳幼児期の教育・保育の一翼を担い、それぞれの施設が保護者ニーズや社会情勢の変化に応じた特色ある教育・保育を実践してきました。

一方で、公立幼稚園では、園児数の減少に伴い、平成22年に宇治市就学前教育のあり方検討委員会からの意見、また、平成29年の宇治市公立幼稚園検討委員会提言書を踏まえ、この間、預かり保育や一部の園で3年保育を試行実施してきました。しかし、さらなる園児数の減少により、子ども同士の触れ合う機会が減少するなど集団教育・保育上の適正規模の確保に関する課題は解決していない状況です。

このため、本検討委員会では、宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く様々な課題について、公立及び私立、民間の就学前施設それぞれが果たすべき役割を確かめながら、就学前施設の具体的な取組の方向性について議論を行ってきました。

この意見書に基づき、全ての子どもたちが夢と希望をもって成長していけるよう、市内全ての就学前施設がそれぞれの役割を十分に果たしながら連携し、市全体の教育・保育の質の向上を共に支え合うことを期待しています。

第1章 乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方

全ての子どもたちが将来に夢と希望をもち健やかに育つため、地域、家庭、就学前施設間できめ細やかな連携をして、乳幼児期の子どもたちが輝ける環境をつくっていくことが重要です。そのため、乳幼児期の教育・保育についての基本理念や目指す子ども像について、就学前施設と小学校、中学校とで共有し、子どもの発達に応じた乳幼児期の教育・保育が行われることが必要です。

1 乳幼児期の教育・保育の基本理念

乳幼児期の教育・保育のより一層の充実に向けて、乳幼児期の教育・保育に関わる基本理念を定める必要があります。

基本理念は、子どもを育む大きな視点として、市民が共感し、共有できるものであることが必要です。

以下の検討委員会での意見を踏まえ、宇治市の乳幼児期の教育・保育の今後のあり方の方向性が決まり次第、基本理念の検討を願います。

【子どもの健やかな成長の観点】

- ・子どもが現在（いま）を最もよく生きること。
- ・子どもが人として輝き、その輝きをつないでいくこと。

【特別な配慮や支援が必要な子どもの観点】

- ・特別な配慮や支援が必要な子どもの就学前施設での受け入れ環境の整備を進めること。
- ・誰一人取り残さず、子ども同士の出会いをしっかりと結んでいくこと。

【子どもの育ちと学びの連続性の観点】

- ・保幼小といった施設類型にかかわらず、人が交流することで連携を進めること。
- ・宇治市教育振興基本計画にあるとおり、「切れ目のない支援のため、幼児期から義務教育終了まで一貫した相談・支援体制を構築」し、就学前後の施設が密に連携して子どもの育ちと学びの連続性を保障していくこと。

【地域や家庭、施設の連携の観点】

- ・家庭と就学前施設、地域の関係団体などの連携（つながり）が子どもの育ちや保護者の安心感につながるように、きめ細やかに連携すること。
- ・各就学前施設が小学校及び療育施設等と行っている連携を市全体で共有するとともに、こうした連携をさらに充実させること。

【乳幼児期の教育・保育の重要性の観点】

- ・子どもたちが、能動的に問いを見つけるような乳幼児期の教育・保育が、子どもたちの発達や学習の基盤、土台となること。

2 宇治市の目指す子ども像

宇治市の目指す子ども像については、検討委員会において、次の各種計画に定める方向性のとおり、宇治市の就学前施設と小学校、中学校とで共有していくものであることを確認しました。

- 『乳幼児期からの子どもの発達や学習の連続性を重視し、学ぶ意欲や自立心を高める取り組みを推進するとともに、「生きる力」をはぐくんでいくことが重要です。（以下、略）』（第2期宇治市子ども・子育て支援事業計画）
- 『「ふるさと宇治」を愛し、グローバルな視点に立ち、社会の変化を前向きにとらえ、主体的に考え行動し、よりよい人生と「あすの宇治」を創り出せる人』（第2次宇治市教育振興基本計画）

第2章 宇治市における乳幼児期の教育・保育の課題と今後のあり方

1 宇治市における乳幼児期の教育・保育の課題

宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題について、次のとおり整理しました。

- (1) 就学前の乳幼児数の減少等について
少子化が進行し乳幼児数が減少する中、特に公立幼稚園の園児数は著しく減少し、子ども同士の触れ合う機会が減少するなど集団教育上の課題が生じている。
- (2) 多様な就労形態への対応について
保護者の多様な就労形態により、施設類型を問わず、施設で過ごす時間の多様化に加え、求められる乳幼児期の教育・保育も多様化している。
- (3) 特別な配慮や支援を要する子どもへの対応について
特別な配慮や支援が必要な子ども一人ひとりに寄り添ったきめ細かで継続的な教育・保育を行うことが求められている。
- (4) 私立・民間施設との連携・協働及び人材育成について
宇治市全域の保幼小連携などの取組を公立、私立、民間、施設類型を問わず全市的に連携・協働して行うとともに、教育・保育の質の向上に向けた人材育成が求められている。
- (5) 家庭や地域、関係機関との連携について
幼稚園、保育所、認定こども園が地域に根差した施設として、子ども・保護者・地域が活動や交流を行っていくための拠点施設としての役割が求められている。

2 宇治市における乳幼児期の教育・保育に求められるもの

上記の課題に対し、その解決のためにこれからの乳幼児期の教育・保育に求められるものは、次のとおりです。

- (1) 公立の就学前施設において基本となる教育・保育を実践することにより、市域全体の乳幼児期の教育・保育の質を確保・向上させること。

- (2) 発達障害や医療的ケアを要する子どもなど、特別な配慮や支援が必要な子どもやその家庭に対し、これまで公立、私立、民間それぞれで積み上げてきた知識や経験を活かし、関係機関等との連携を図りながら、共に支援していく仕組みを構築すること。
- (3) 小学校と保幼小連携の研究、研修を進め、その効果を共有し、市全体で連携・協働していくとともに、地域や家庭と連携し、子育て相談や地域行事への参加など、地域に根差した取組を進めること。
- (4) 合同での各種研究、研修の実施を通じ、施設類型に関係なく教育・保育の基本理念を共有し、職員同士の連携の強化を図るとともに、人材育成に努めること。

3 宇治市の公立施設における取組

上記の課題や求められる教育・保育を踏まえ、次のとおり、公立施設の取組を進めていくことを期待します。

- (1) 基本となる教育・保育を実践することにより、市域全体の乳幼児期の教育・保育の質を確保・向上させる取組を推進していくとともに、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持すること。
- (2) 発達障害や医療的ケアを要する子どもなど、特別な配慮や支援が必要な子どもやその家庭に対するセーフティネットを担うとともに、療育など福祉と連携・協働した支援体制を強化すること。
- (3) 公立間の連携のしやすさを活かし、公立施設が先導的に小学校と宇治市全域の保幼小連携に向けた架け橋プログラムなど、教育・保育の質の向上に向けた研究、研修を、施設類型を問わず私立幼稚園や民間保育所・認定こども園と連携・協働して実施するとともに、これらの研究、研修機能や子育て相談など子育て支援機能の強化を図ること。
- (4) 市域全体での職員同士の連携の強化及び教育・保育の質の向上を図るため、人材育成の推進や施設類型の垣根を超えた各種研究、研修の実施の場を設けること。

第3章 宇治市の乳幼児期の教育・保育の今後のあり方に関する意見

宇治市の乳幼児期の教育・保育施設を取り巻く課題として、「少子化が進行する中、就学前の乳幼児期に適正な規模での集団生活が必要であること」「女性の社会進出やテレワークの普及など多様な就労形態により、就学前施設で子どもが過ごす時間が多様化するとともに、求められる教育・保育も多様化していること」「特別な配慮や支援を要する子ども一人ひとりに寄り添ったきめ細かな教育・保育を行う必要があること」「就学前施設で子どもが育ち、学ぶための環境整備が必要であること」が挙げられます。

こうした課題に的確に対応しつつ、子どもたちの健やかな成長を支え、宇治市における乳幼児期の教育・保育の一層の充実を図るため、宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会が設置されました。

本検討委員会では、宇治市における乳幼児期の教育・保育についての現状や推移を様々なデータ等で把握するとともに、幼稚園・保育所（園）・認定こども園に対するアンケート結果の報告を受け、意見交換を重ねてきました。

私立幼稚園や民間保育所・認定こども園においては、これまでの間、宇治市における教育・保育の一翼を担ってきており、それぞれの施設が保護者ニーズや社会情勢の変化に応じた特色ある独自の教育・保育を実践することで、宇治市の乳幼児期の教育・保育の質の向上が図られてきています。また、地域や家庭と連携し、子育て相談や地域行事への参加に取り組むなど、地域に根差した拠点施設としての役割も果たしてきています。今後更なる教育・保育の質の向上、社会的役割が求められる中で、私立幼稚園や民間保育所・認定こども園には引き続きこうした取組を公立施設と協働しながら実践し活躍されることが求められています。

公立就学前施設においては、基本となる教育・保育を実践することにより市域全体の乳幼児期の教育・保育の質を確保・向上させる取組を推進するとともに、幼稚園教諭、保育士等の職員の人材育成を図っていく必要があります。

また、公立間の連携のしやすさを活かし、公立施設が先導的に小学校と宇治市全域の保幼小連携に向けた架け橋プログラムなどの研究、研修を実施するとともに、これらの研究、研修機能や子育て相談など子育て支援機能の強化を図る役割も求められています。こうした取組を進めるにあたっては、公立幼稚園・保育所が核となり、私立幼稚園、民間保育所・認定こども園それぞれと協働し、研究、研修を推進していく必要があります。

さらに、発達障害や医療的ケアを要する子どもなど、特別な配慮や支援が必要な子どもやその家庭に対するセーフティーネットを担うとともに、療育

など福祉と連携を強め、私立幼稚園、民間保育所・認定こども園への支援体制の充実が求められています。

加えて、公立就学前施設については、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえた適正規模を維持することが求められており、検討委員会においては、認定こども園化も視野に入れながら、基本となる教育・保育を実践する公立幼稚園機能は残していく必要があると考えます。

宇治市の乳幼児期の教育・保育におかれましては、安心して子育てができる環境とともに子どもが健やかに育つ環境づくりが進み、子育て、子育て支援の充実に向けた取組を一層進められることを期待いたします。

【参考資料】

1 宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会設置要項

（目的及び設置）

第1条 本市における公立幼稚園・保育所の意義と役割を含む今後のあり方等に関することについて検討するため、宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（担任事項）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について検討し、市長に意見を提出する。

- (1) 公立幼稚園・保育所における教育・保育の充実のための方策
- (2) 公立幼稚園・保育所の今後のあり方
- (3) その他必要があると認められる事項

（組織）

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 幼稚園・保育施設の従事者
- (3) 幼稚園・保育施設の保護者
- (4) 小学校の関係者
- (5) 特別支援及び発達支援の関係者
- (6) その他市長が適当であると認める者

（任期）

第4条 委員の任期は、市長が前条第2項の規定による委嘱又は任命をする日から委員会が第2条の規定による提出をする日までとする。

2 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときはその職務を代理する。

（会議）

第6条 委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

（意見の聴取等）

第7条 委員長は、委員会において必要があると認めるときは、委員以外の者に会議への出席を求め、その説明若しくは意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

（会議の公開）

第8条 会議は、公開とする。ただし、委員の発議により出席した委員の過半数で非公開

とすることが議決された事項については、非公開とする。

（庶務）

第 9 条 委員会の庶務は、福祉こども部保育支援課及び教育部教育支援センター学校改革推進課において処理する。

（補則）

第 10 条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会の会議に諮って定める。

附 則

- 1 この要項は、令和 4 年 4 月 26 日から施行する。
- 2 この要項の施行後最初の委員会の会議の招集は、第 6 条第 1 項の規定にかかわらず、市長が行う。

2 宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会委員一覧

分野	所属等	氏名
学識経験を有する者	大阪総合保育大学 学長	大方 美香
	京都教育大学 准教授	佐川 早季子
幼稚園・保育施設の 従事者	宇治福祉園 理事長	杉本 一久
	こざくら幼稚園 園長	松井 明恵
	小倉双葉園保育所 所長	武村 美穂子
	東宇治幼稚園 園長	篠原 真奈美
幼稚園・保育施設の 保護者	宇治市保育所保護者会連合会	好田 ひとみ
	宇治市立幼稚園 PTA 連合会	西川 玲子
小学校の関係者	木幡小学校 校長	藤田 祥尚
特別支援及び発達支 援の関係者	京都府社会福祉事業団 こども発達支援センター	中西 みき

3 宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会検討経過

会議	開催日	内容
第1回	令和4年4月26日	○委嘱状交付 ○委員長及び副委員長の選出 ○宇治市の乳幼児期の教育・保育についての現状説明
第2回	令和4年5月13日	○検討事項について (乳幼児期の教育・保育の推進、保幼小連携の取り組みの推進、地域や家庭、関係機関との連携)
第3回	令和4年5月25日	○幼稚園・保育所(園)・認定こども園に対するアンケート結果の報告 ○検討事項について (特別支援教育・障害児保育等の充実) ○「基本理念と目指す子ども像」について ○意見書の概要について
第4回	令和4年6月22日	○意見書(案)について
第5回	令和4年8月18日	○パブリックコメントの結果報告 ○意見書の確定

4 幼稚園・保育所(園)・認定こども園に対するアンケート結果

別紙「宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会におけるアンケート調査 まとめ」参照

5 宇治市の状況

(1) 人口の推移

①総人口

総人口は年々減少しており、令和3年で184,432人となっています。また、年齢3区分別人口構成の推移をみると、年少人口（0～14歳）は減少しているのに対し、老年人口（65歳以上）は増加しており、少子高齢化が進んでいます。

	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
年少人口 (0～14歳)	25,872	25,340	24,727	24,151	23,580	22,909	22,334
生産年齢人口 (15～64歳)	114,527	112,631	111,440	110,265	109,422	108,381	107,487
老年人口 (65歳以上)	49,773	51,165	52,290	53,057	53,655	54,182	54,611
合 計	190,172	189,136	188,457	187,473	186,657	185,472	184,432

資料：宇治市統計書（各年4月1日現在）

②人口動態

出生数の状況をみると、年々減少し、令和元年では1,038人となっています。死亡数の状況をみると、年によって増減はありますが、令和元年では1,762人となり、自然減となっています。

転入・転出の状況をみると、転入者数・転出者数ともに年によって増減はありますが、転出者数が転入者数を上回り推移しています。

区分	H27	H28	H29	H30	H31	R2
転入	6,249	6,255	6,476	6,463	6,545	6,280
転出	7,138	6,830	6,794	6,665	7,081	6,460
出生	1,369	1,296	1,246	1,219	1,038	1,118
死亡	1,713	1,670	1,701	1,780	1,762	1,821

資料：宇治市統計書

③18歳未満の子どものいる共働き世帯の推移

本市の18歳未満の子どものいる世帯は年々減少しているものの、共働き世帯数は増加しており、割合は平成27年には50.6%となっています。

	H12	H17	H22	H27
18歳未満の子どものいる世帯	20,070	19,217	18,985	17,390
共働き世帯	7,822	7,863	8,296	8,798
割合(%)	39.0	40.9	43.7	50.6

資料：国勢調査

(2) 就学前児童数の減少と今後の教育・保育等の量の見込み

①就学前児童数

就学前児童にあたる0歳から5歳児の人口については、平成27年以降平均で毎年3%程度減少しています。子ども子育て支援事業計画では、令和6年の推計値は7,731人としておりますが、令和4年度の児童数実績値7,272人から毎年度△3%で試算すると、約6,840人になると推計しています。

		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
児童数	0歳	1,398	1,334	1,246	1,239	1,181	1,064	1,090	1,093		
	1歳	1,420	1,454	1,381	1,284	1,305	1,230	1,118	1,131		
	2歳	1,514	1,435	1,447	1,390	1,299	1,300	1,242	1,134		
	3歳	1,602	1,510	1,455	1,468	1,402	1,309	1,315	1,270		
	4歳	1,650	1,612	1,519	1,470	1,479	1,417	1,327	1,320		
	5歳	1,660	1,653	1,612	1,518	1,487	1,472	1,416	1,324	推計	
	合計	9,244	8,998	8,660	8,369	8,153	7,792	7,508	7,272	→	6,840
減少率 (前年比)		—	▲2.7%	▲3.8%	▲3.4%	▲2.6%	▲4.4%	▲3.6%	▲3.1%	▲3.0%	▲3.0%
※子ども子育て支援事業計画 推計値							8,031	7,891	7,811	7,772	7,731
減少率(前年比)							▲1.5%	▲1.7%	▲1.0%	▲0.5%	▲0.5%

資料：第2期宇治市子ども子育て支援事業計画（各年4月1日現在）

②1号～3号認定の児童数推移【資料：第2期宇治市子ども子育て支援事業計画】

(1) 満3歳以上の教育（1号認定）

幼稚園への入園が見込まれる1号認定児童は令和2年度から5年間に約12.6%の減少が見込まれます。

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
量の見込み	1,831人	1,749人	1,653人	1,641人	1,600人
確保方策	3,386人	3,386人	3,386人	3,386人	3,386人
過不足 (確保方策－量の見込み)	1,555人	1,637人	1,733人	1,745人	1,786人

(2) 満3歳以上の保育（2号認定）

保育所への入園が見込まれる2号認定児童も令和2年度から5年間に約12.6%の減少が見込まれます。

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
量の見込み	2,331人	2,225人	2,103人	2,089人	2,037人
確保方策	2,367人	2,367人	2,367人	2,367人	2,367人
過不足 (確保方策－量の見込み)	36人	142人	264人	278人	330人

(3) 満3歳未満の保育（3号認定）

保育所への入園が見込まれる3号認定児童は令和2年度から5年間に約3.5%の減少が見込まれます。

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
量の見込み	1,827人	1,813人	1,807人	1,797人	1,782人
確保方策	1,859人	1,859人	1,859人	1,859人	1,859人
過不足 (確保方策－量の見込み)	32人	46人	52人	62人	77人

6 宇治市の公立幼稚園・保育所の状況

(1) 公立幼稚園・保育所の概要

①公立幼稚園の概要（開所年度、整備年度、面積、定員、開所時間）

幼稚園	開所 年度	整備 年度	築 年数	面積（㎡）		定員（人）				開園時間
				園舎	園庭	3歳	4歳	5歳	計	
神明 幼稚園	昭和 40年	昭和 48年	49年	582	733		60	70	130	(教育課程に係る教育時間) 月・火・木・金曜日 8時45分～14時 水曜日 8時45分～11時45分 (預かり保育実施時間) 月・火・木・金曜日 14時～17時 水曜日 11時45分～17時
東宇治 幼稚園	昭和 19年	昭和 45年	52年	618	1705	25	60	70	155	
木幡 幼稚園	昭和 51年	昭和 51年	46年	442	1429		30	35	65	

②公立保育所の概要（開所年度、整備年度、面積、定員、開所時間）

保育所	開所 年度	整備 年度	築 年数	面積（㎡）		定員（人）			開所時間
				園舎	園庭	乳児	幼児	計	
小倉 双葉園 保育所	昭和 26年	昭和 47年	50年	1818.71	1320.00	60	160	220	7時30分～18時30分
宇治 保育所	昭和 30年	昭和 50年	47年	1059.76	604.50	55	110	165	
木幡 保育所	昭和 41年	平成 12年	22年	1169.35	603.50	55	110	165	7時～19時
西小倉 保育所	昭和 45年	昭和 44年	53年	675.37	826.50	30	70	100	7時30分～18時30分
大久保 保育所	昭和 46年	平成 26年	8年	1166.39	841.00	30	90	120	
北木幡 保育所	昭和 49年	昭和 49年	48年	1090.25	546.00	30	90	120	
善法 保育所	昭和 51年	昭和 50年	47年	800.51	510.00	18	32	50	

(2) 小・中学校区別幼稚園及び保育所等の設置状況

①小学校区別 幼稚園及び保育所等の設置状況

小学校区	公立幼稚園	公立保育所	私立幼稚園	民間認定 こども園	民間保育所 (園)
1 菟道		善法	こざくら	みんなのき 三室戸	みんなのき Hana
2 菟道第二	神明	宇治		南浦くすのき	
3 神明			みのり	ひいらぎ	
4 槇島				槇島ひいらぎ のぞみ	
5 北槇島				いずみ	
6 小倉		小倉双葉園	宇治		
7 伊勢田				伊勢田	
8 西小倉		西小倉	堀池 西小倉		
9 北小倉			小倉	こひつじ	
10 南小倉				南浦	
11 大久保			ひろの		広野
12 大開					
13 西大久保	(大久保※)	大久保			
14 平盛				同胞	くりくま
15 宇治				みんなのき 黄檗(分園) 明星っ子	なかよし (本園・分園)
16 三室戸					あさひ
17 南部			かおり		
18 岡屋	東宇治			みんなのき 黄檗(本園)	
19 木幡	木幡	木幡 北木幡		登り(本園) 第2登り	
20 御蔵山			大谷大学付 属大谷	登り(分園)	
21 笠取					
22 笠取第二					

※大久保幼稚園は令和元年度末廃園

②中学校区（地域子育て支援拠点）別 幼稚園及び保育所等の設置状況

中学校区 （地域子育て支援拠点※1）	公立幼稚園	公立保育所	私立幼稚園	民間認定 こども園	民間保育所 （園）
1 宇治 （げんきひろば）	神明	宇治 善法	こざくら	みんなのき三 室戸 南浦くすのき	みんなのき Hana
2 北宇治 （西部）		小倉双葉園	宇治 小倉	こひつじ のぞみ	
3 槇島 （ぶんきょうに こにこルーム）				いずみ 槇島ひいらぎ	
4 西小倉 （ひあにしおぐら）		西小倉	堀池 西小倉	南浦	
5 西宇治 （ぼけっと）			みのり	ひいらぎ 伊勢田	
6 南宇治 （南部）	（大久保※ 2）	大久保		同胞	くりくま
7 広野 （りぼん）			ひろの		広野
8 東宇治 （toridori）	東宇治		かおり	みんなのき黄 檠（本園）	あさひ
9 木幡 （北部）	木幡	木幡 北木幡	大谷大学付 属大谷	登り（本園・ 分園） 第2登り	
10 黄檠 （東部）				みんなのき黄 檠（分園） 明星っ子	なかよし （本園・分 園）

※1 地域子育て支援拠点事業は、全中学校区において、地域における子育て親子の交流等を促進する拠点を設置し、地域の子育て支援機能の充実を図るため、子育て相談や親子を対象とした講座、子育て情報の提供や子育てサークルの育成・支援等を実施しています。

※2 大久保幼稚園は令和元年度末廃園

(3) 支援や配慮を必要とする乳幼児への対応

幼稚園では、障害のある幼児への指導では、宇治市立幼稚園就園支援委員会や、宇治市特別支援教育推進委員会からの指導助言を得ながら、個々の幼児の障害の状態に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的に行っています。

また、特別支援教育コーディネーターを中心に、長期的な視点で幼児への教育的支援を行うため、個別の教育支援計画や指導計画を作成するなど、就学先である小学校と切れ目のない支援に努めています。

保育所等では、障害児等の受け入れは昭和44年から実施しており、集団保育を行う上で配慮が必要な子どもの受け入れに対し加配保育職員を配置しています。また、保育支援課に障害児保育指導員を設置し、各保育所、認定こども園に対する指導助言を行っています。

○公立幼稚園(各年5月1日現在、R4は4月10日現在)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
支援児童	46	43	27	23	40	31	31	19
在園児数	166	153	124	94	128	112	95	75
割合(%)	27.7	28.1	21.8	24.5	31.3	27.7	32.6	25.3

○公立保育所(各年5月1日現在、R4は4月10日現在)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
支援児童	62	71	66	57	52	56	59	63
在園児数	936	942	927	911	912	902	885	852
割合(%)	6.6	7.5	7.1	6.3	5.7	6.2	6.7	7.4

宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会
におけるアンケート調査 まとめ

（宇治市内各幼稚園・保育施設対象）

宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会事務局
令和４年６月２２日

I. アンケート内容・目次

1. 保育内容等について	P4～
1-1 保育内容の特色（主な例）	
1-2 教育・保育方針（主な例）	
1-3 重点的に取り組んでいる活動	
2. 人材確保等について	P7～
2-1 工夫している内容	
2-2 課題と感じる内容	
3. 保幼小の連携について	P9～
3-1 保幼小連絡会以外での取組内容	
3-2 保幼小連携の課題	
4. 配慮を要する乳幼児について	P10～
4-1 配慮を要する乳幼児の在園児数について（R3）	
4-2 入園に際しての対象について	
4-3 配慮を要する乳幼児に対する職員体制について	
4-4 移行支援シートの作成状況について	
5. 家庭・地域との連携等について	P13～
5-1 家庭・地域と連携した取組の実施状況	
5-2 未就園児向け事業の実施状況	
5-3 子育て相談の実施状況	
6. 預かり保育事業について（幼稚園のみ）	P15
預かり保育事業による、概ね一日あたりの利用人数	
7. その他	P15

Ⅱ. アンケート主旨

宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会において、公立幼稚園・保育所の意義と役割を含む今後のあり方等に関することを検討することから、その議論を進めるために、市内全体の幼稚園・保育施設の取組状況等の把握を行う。

Ⅲ. アンケート対象

対象施設	施設数	園児数（R3）	有効回答数	回答割合
民間保育所等	19	2,898	18	94%
公立保育所	7	885	7	100%
私立幼稚園	9	1,473	9	100%
公立幼稚園	3	95	3	100%

※民間保育所等に認定こども園を含む

Ⅳ. アンケート期間

令和4年5月13日（金）～5月19日（木）

※上記期間以後についても令和4年6月16日までの回答を有効としている。

V. 回答内容まとめ

1. 保育内容等について

1-1 保育内容の特色（主な例）

【保育園等（民間・公立）、幼稚園（私立・公立）】

健康	- 保・子どもの健やかな成長を育む - 保・健康な心身の土台作り
体験	- 保・いろいろな体験ができる、経験主義の教育 - 保・子どもの「やってみたい」という気持ちと体験を大切にする - 幼・心と体を動かす直接体験重視
遊び	- 保・ゆかいな、なかまと、のびのびあそぼう - 保・どろんこ遊び - 保・子どもが楽しく遊べる環境づくり - 保・生き生きと遊べる子どもを育てる
心情 意欲 態度 など	- 保・一人ひとりを大切にする - 保・生き抜く力の基礎を培う - 保・生命を大切にする生成の教育 - 保・子ども主体の教育・保育 - 保・健康な子ども、意欲を持って取り組める子ども、思いやりのある子ども - 保・思いやりの心を育てる - 幼・「ときどき、わくわく」「のびのび、いきいき」を育てる - 幼・笑顔いっぱい、やる気いっぱい、友だちいっぱい、感動いっぱい - 幼・みんなが心をつなげて力を合わせたり、助け合ったりする力を育てる - 幼・子どもの言葉や行動を大切にする - 幼・強い心と体づくり - 幼・感性・心豊かな子どもの育ち - 幼・知情体 - 幼・学ぶ楽しさを通した保育 - 幼・子どもの主体的な活動を重視 - 幼・個々を大切に幼児の主体的活動に重きを置く - 幼・一人ひとりの特性に応じた指導

保：保育園等の回答内容 幼：幼稚園の回答内容

1-2 教育・保育方針（主な例）

【保育園等（民間・公立）】

- ・能力は生まれつきのものではなく、環境のいかんによって変わるという信念
- ・無限の可能性に響く保育環境の提供
- ・生き抜く力の基礎を培う
- ・豊かな感性を育む、社会性を身に付ける（戸外活動中心）
- ・自分らしく豊かに生き、未来を創り出す力の基礎を培う
- ・心やさしく、たくましく
- ・子どもの健全な心身の発達を図りつつ、生涯にわたる人格形成の基礎を培う
- ・仲間を大切にしあえる集団づくり
- ・豊かな人間性を持った子どもの育成
- ・愛されることで心も身体も健全に育ち、大切にされることで豊かな人間性を育む
- ・環境を整え、健全な心身の発達を図るとともに、豊かな人間性を育む
- ・素直で明るく、伸び伸びと行動できる子ども・思いやり、優しさのある子ども・意欲を持って行動できる子ども
- ・ゆっくり じっくり こどもの心を育む
- ・「心も身体も元気な子」を目標に足腰を強く、心優しく、社会に出た時に困らない躰を
- ・子どもたちの主体的、能動的な思いや活動
- ・心やさしく たくましく
- ・あそびの中に「学び」の保育、心身の健康をめざす、生活習慣の確立
- ・心身ともに健やかな育ち
- ・豊かな人間性が身につくよう、ひとり一人を受け止めはぐくむ教育・保育
- ・家庭と連携しながら心身ともに健やかで豊かな子どもを育てる
- ・子ども一人ひとりを大切に、家庭と連携をはかり健やかな子どもを育てる
- ・話を聴く子・仲間を大切にする子・豊かに表現する子
- ・保育所生活を楽しく充実させる、保護者と一緒に子育てについて考える
- ・子ども一人ひとりの基礎となる発達を保障する 等

【幼稚園（私立・公立）】

- ・自分で感じ、自分で考え、自分で行動する主体性を育む。
- ・人が生涯にわたって持ち続ける基本的な人間への信頼と愛情を育む
- ・さまざまな体験を通して人間形成の基礎を培う

- ・心豊かな人材の育成
- ・誰でも育つ、育て方一つ
- ・集団生活の中で基本的な生活習慣を身に着け、自主性をはぐくみ、生きる力を身につける
- ・生き生きと自己発揮し、良いところをどんどん伸ばしていけるように
- ・育つときに、大きく育てる
- ・幼児期の特性を踏まえ、環境を通し心身ともに健全な幼児を育成する
- ・幼児の興味関心を大切にしながら、遊びを通して学び、人格形成の基礎を育む
- ・たくましい体と豊かな心をもった子どもの育成・たくましいこども・思いやりのある子ども・よく考えるこども 等

1-3 重点的に取り組んでいる活動（複数回答可）

内容	民間保育園等		公立保育所		私立幼稚園		公立幼稚園	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
音楽・ダンス	10	55%	0	—	7	77%	0	—
外国語	3	16%	0	—	3	33%	1	33%
伝統文化	7	38%	0	—	3	33%	0	—
絵画	7	38%	1	14%	3	33%	0	—
園芸・農作物	9	50%	2	28%	4	44%	1	33%
科学教室	3	16%	0	—	2	11%	0	—
スポーツ	10	55%	0	—	8	88%	0	—
その他	8	44%	1	14%	2	11%	0	—
計	※18		※7		※9		※3	

※は回答数の合計ではなく、回答対象施設数

（表中の割合は小数点以下切り捨て：以下の表も同様）

◆その他の内容等

- ・散歩、どろんこ遊び、身体づくり、自然体験、一輪車、フラフープ、自ら遊ぶ、戸外活動、楽しめる表現遊び、実践と研究、インクルーシブ教育、食育、創造する持久力の育成 等
- ・それぞれ、頻度は、毎日～月数回まで様々

考察

- ・民間保育園、私立幼稚園の取組内容は多岐に渡り、複数の内容に取り組んでいる園が多い

2. 人材確保等について

2-1. 工夫している内容

【保育園等（民間・公立）】

- ・積極的な実習生の受け入れ
- ・就職フェアへの参加
- ・ハローワークでの求人
- ・園紹介動画
- ・SNS 等を通じた周知
- ・専用の求人サイト登録
- ・質の高い教育・実践
- ・福利厚生（休暇制度等）
- ・働きやすい職場づくり
- ・チームワーク
（気持ちよく働くことができる職場）
- ・採用後のメンター制度 等

【幼稚園（私立・公立）】

- ・高校生体験
- ・HP での周知
- ・ブログ発信
- ・教育実習生の受け入れ
- ・自由な風土づくり
- ・働きやすい環境の維持
（ワークライフバランス）
- ・教員が孤立しないように支援 等

2-2. 課題と感ずる内容

【保育園等（民間・公立）】

- ・実習生の減少傾向
- ・年度途中確保の困難さ
- ・定着率の低下
- ・休憩時間の確保
- ・財政基盤の強化
- ・職員処遇
- ・人材確保と育成
- ・育てる側の育成
- ・高齢化 等

【幼稚園（私立・公立）】

- ・募集時期に学生確保が難しい状況にある
- ・採用行為の時期を早める必要性
- ・効果的なアピール
- ・処遇改善 等

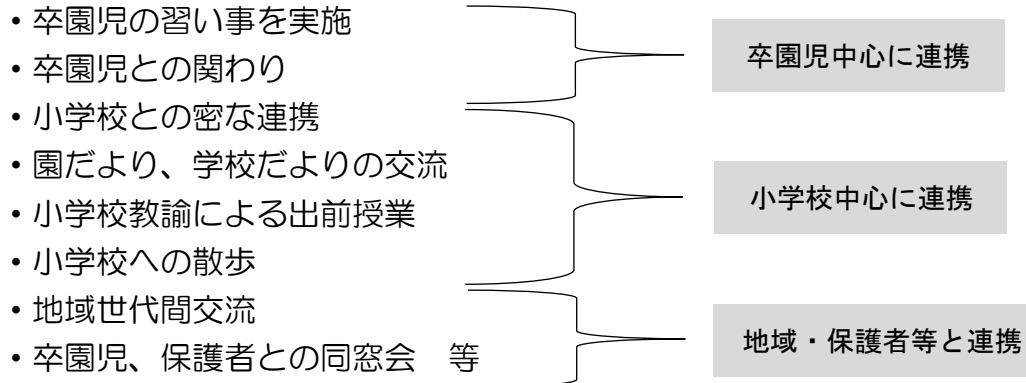
考察

- ・担い手不足の状況にあり、特に年度途中採用等に苦慮している
- ・採用後も定着率が高まるよう、働きやすい環境の維持に努めている

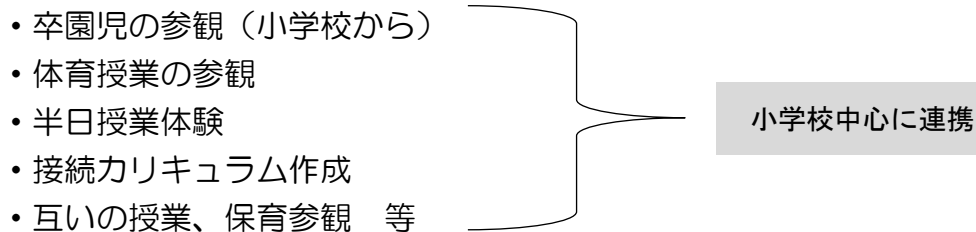
3. 保幼小の連携について

3-1. 保幼小連絡会以外での取組内容

【保育園等（民間・公立）】



【幼稚園（私立・公立）】



3-2. 保幼小連携の課題

【保育園等（民間・公立）】

- 参観日程が、各校ごとの対応となるため、重なる
- 学校側の日程決定時期が遅い
- 交流の調整が困難
- 小学校側が必要と考えていないように感じる
- 小学校の管理職により対応が異なる
- 小学校側からも積極的な取組や関わりが必要
- 引き継いだ内容の活用状況が分からない
- 生涯教育を展望した教育・保育観の共有、実践交流
- 卒園した児童の様子が分からない 等

【幼稚園（私立・公立）】

- ・子どもの参観日程が重なる
- ・小学校の先生に園の様子を見ていただきたい
- ・参観、懇談の機会を増やしたい
- ・小学校ステージへのギャップを感じることなく進めるようにしたい
- ・保幼の連携も必要 等

考察

- ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ここ数年は、以前よりも交流が難しくなっている
- ・保幼小連携についての目的や必要性について、それぞれが理解し、また小学校側も理解した上での取組を考える必要がある

4. 配慮を要する乳幼児について

4-1. 配慮を要する乳幼児の在園児数について（R3）

	民間保 育園等	公立 保育所	私立 幼稚園	公立 幼稚園	計	割合
0人	0	0	0	0	0	0%
1～5人	10	2	1	2	15	40%
6～10人	6	2	3	0	11	29%
11人以上	2	3	5	1	11	29%
施設数	18	7	9	3	37	

4-2. 入園に際しての対象について

内容	民間保 育園等	公立 保育所	私立 幼稚園	公立 幼稚園	計	割合
身体障害（視覚・聴覚・肢体など）	7	7	3	3	20	54%
発達の遅れ（身辺自立・理解など）	15	7	7	3	32	86%
発達障害（こだわり、多動など）	16	7	7	3	33	89%
医療的ケア （喀痰吸引、経管栄養、導尿など）	6	0	0	0	6	16%
その他	2	0	1	0	3	8%
計	※18	※7	※9	※3	※37	

※は回答数の合計ではなく、回答対象施設数

◆その他の内容:

- ・受入れの対象は年度によって異なる
- ・基準を決めず、入園時に保護者との話し合いで入園を決定している

考察 

- ・どの保育園、幼稚園においても、それぞれの基準や考えを基に、配慮が必要な乳幼児の受け入れを行っている
- ・民間保育園等では、医療的ケア児の受け入れも行っている

4-3. 配慮を要する乳幼児に対する職員体制について

【保育園等（民間・公立）】

- ・乳幼児1人に対して1人の職員を配置
- ・乳幼児3人に対して1人の職員を配置
- ・対象児により異なる
- ・医療的介護が必要な場合に配置
- ・概ね乳幼児2～3人に1人の職員を配置
- ・概ね乳幼児2人に対して1人の職員を配置 等

【幼稚園（私立）】

- 必要な園児に対して、フリー教員や非常勤教員が支援を行う
- 集団生活を過ごせるように支援
- 乳幼児1人に対して1人の職員を配置 など

【幼稚園（公立）】

- 就園支援委員会で決定

考察

• 幼稚園（私立）については、配慮が必要な乳幼児に対しての支援として、園独自で加配を配置するほか、園体制の中で、必要な支援の手立てが取れるように体制の工夫をしている

4-4. 移行支援シートの作成状況について

内容	民間保育園等		公立保育所		私立幼稚園		公立幼稚園	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
している	8	44%	0	—	1	11%	3	100%
していない	9	50%	7	100%	8	88%	0	—
その他	1	5%	0	—	0	—	0	—
施設数	18		7		9		3	

◆「していない」「その他」の内容

- 移行支援シート以外の方法で、緊密な連携を図る
- 指導要録に加え、個別報告
- 保育要録にて作成
- 就学前の懇談実施
- 正式な書式ではないが、配慮事項等は引継ぎしている
- 保育要録にて記載、年度末に小学校からの訪問
- 療育機関に通所している場合は、療育機関で作成 など

5. 家庭・地域との連携等について

5-1. 家庭・地域と連携した取組の実施状況

(家庭・地域と連携)

	民間保 育園等	公立 保育所	私立 幼稚園	公立 幼稚園	計	割合
実施している	17	7	9	3	36	97%
実施していない	1	0	0	0	1	2%
施設数	18	7	9	3	37	

◆主な内容など

- ・高齢者施設への訪問、歌の交流
- ・地域行事への参加（祭りなど）
- ・小中学生を招いた発表会
- ・ふれあいコンサート
- ・高校生との交流
- ・人形劇、和太鼓
- ・ワークショップ など

考察 

特に高齢者施設との交流が多い

5-2. 未就園児向け事業の取組の実施状況

(未就園児向き)

	民間保 育園等	公立 保育所	私立 幼稚園	公立 幼稚園	計	割合
実施している	17	6	9	3	36	97%
実施していない	0	1	0	0	1	2%
施設数	17	7	9	3	37	

◆主な内容など

- ・未就園児一時保育、園開放、プール開放、親子教室
- ・ベビータッチリトミック、遊びの広場、母子分離
- ・親子体操、人形劇鑑賞 など

5-3. 子育て相談の実施状況

(子育て相談)

	民間保 育園等	公立 保育所	私立 幼稚園	公立 幼稚園	計	割合
実施している	17	7	8	3	36	97%
実施していない	0	0	1	0	1	2%
施設数	17	7	9	3	37	

◆主な内容など

- ・育児相談、子ども理解に関する相談
- ・電話相談、食育講習、発達相談
- ・家庭相談、個人懇談

◆対象

多くの園で、在園児以外も対象としている

◆体制

保育士・保育教諭・幼稚園教諭が相談者となっていることが多数であるが、
「看護師」「ソーシャルワーカー」「臨床心理士」「キンダーカウンセラー」を
相談者としている園もある

6. 預かり保育事業について（幼稚園のみ）

※幼稚園は長期休業期間があることから、以下のとおり、預かり保育事業の状況のアンケートを行った

1日あたりの概ねの利用人数（長期休業期間外、通常時）

	私立幼稚園	公立幼稚園
10人未満	2	3
10人～20人	5	0
21人以上	2	0
施設数	9	3

1日あたりの概ねの利用人数（長期休業期間中）

	私立幼稚園	公立幼稚園
10人未満	3	—
10人～20人	2	—
21人以上	4	—
施設数	9	3

※公立幼稚園は長期休業期間中の預かり保育を実施していない

考察

長期休業期間中であっても、預かり保育利用者が大きく減少するのではなく、利用者は増えているケースもある

7. その他（全般に対する意見等）

- ・移行支援シートは園独自で作成しているので、統一シートへの移行はせず意見を聞いてもらいたい
- ・乳幼児期にどのような力をつけることが大切か、正しい乳幼児教育・保育の見解を、保護者だけでなく市民全体に広げる努力が必要
- ・若年世帯に選ばれる市になるため、幼稚園・保育園・認定こども園が一体となり教育・保育に取り組んでいくことが重要
- ・宇治市で子育てをしたいと思ってもらえることに重きを置くべき
- ・支援が必要な子どもは増加傾向
- ・長期的視座に立つ教育・保育観を醸成する必要がある。アンケート結果の活用には留意が必要
- ・公立幼稚園の意義について、「教育」と「福祉」の観点からの役割を見直してほしい 等